

平成29年度展覧会

(1) 展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」に相応しい展覧会を開催する。

○感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

◇収蔵展

世界でも有数の3万4千点にのぼる写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画・実施した。

(1) TOPコレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、毎年テーマを設定して100%収蔵品で構成するコレクション展。今年は総合開館20周年記念として平成年代に活躍を続けている日本の作家を中心に「平成をスクロールする」と題して、3期にわたって以下のテーマで展開した。「いま、ここにいる」春期、「コミュニケーションと孤独」夏期、「シンクロシティ」秋期。また、3期共同図録『総合開館20周年記念 TOPコレクション 平成をスクロールする』を出版した。

当館が誇るウジェーヌ・アジェのコレクションに焦点をあて、彼と同時代人との交流からアジェに影響を受けた現代までの国内外の作家の作品を当館収蔵作品の中から厳選し、アジェの意味と影響を考察した。また図録として『アジェのインスピレーション 引き継がれる精神』を出版した。

(2) 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

1932年から33年までのわずか2年間に発行された『光画』。わずか500部の写真同人誌とその同人がその後の日本写真界に多大な影響を与えた。『光画』から「新興写真」を取り上げて、その意味と役割を探った。図録は国書刊行会から『『光画』と新興写真 モダニズムの日本』として一般書として出版した。

(3) 映像展

1960年代半ばから欧米を中心に展開された「エクспанデッド・シネマ」。誕生から様々な実験を繰り返した日本の作品に着目し、その独自性と先見性を当館の映像コレクションを中心に検証した。新たな試みとして映像展と恵比寿映像祭を連動させた。同展図録を出版した。

◇自主企画展

支援会費を中心とした自主財源を効果的に使い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を国際動向もふまえて実施した。

(1) 第二期重点収集作家個展

総合開館20周年記念展として、第二期重点収集作家の「荒木経惟 センチメンタルな旅 1971- 2017-」展を開催した。1971年に出版された私家版の写真集に始まり、現在へと続いている荒木経惟の妻「陽子」というテーマに焦点をあて、荒木の私写真、そしてその写真人生を展覧した。また、同時期に開催した東京オペラシティアートギャラリー「荒木経惟 写狂老人A」との相互割引を実施した。図録はHeHeから同名の写真集を一般書として出版した。

(2) 国際展

総合開館20周年記念展として、今、世界の中でも最も注目されているインドの女性写真家ダヤニータ・シンを取り上げ、初期の作品から最新昨までを展覧する「ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館」展として開催した。同名図録を出版した。

(3) 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘につとめ、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるためのシリーズ。第14回となる今回は多様なアプローチを「無垢と写真」というキーワードでひもとく、「無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol. 14」展を開催した。また、同名図録を出版した。

(4) 旬な作家のミッド・キャリア展

国内外で活躍の著しい作家のミッド・キャリア展。今回は長島有里枝を取り上げ、その鮮烈なデビューから現在までを、家族や女性のアイデンティティを中心に「長島有里枝 そしてひとつまみの皮肉と、愛を少々。」展として開催した。同名図録を出版した。

(5) 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

明治改元150周年を記念し、写真発祥地をとらえた初期写真を核に、幕末・明治の姿を再構築する連続展の第一弾。今回は「写真発祥地の原風景 長崎」展として、長崎歴史文化博物館との協力を得て長崎における初期写真の役割や展開を考察した。また同博物館へ巡回を予定している。また、同名図録を出版した。

(6) 恵比寿映像祭

「東京文化プログラム」の基幹事業である恵比寿映像祭。記念すべき第10回となる今回は、「インヴィジブル」を総合テーマとして、東京都写真美術館全館のほか、恵比寿ガーデンプレイスや近隣施設などを会場に、地域と連携しながら、展示、上映、野外展示、シンポジウム、レクチャー、ライブ・イベント等、多彩なプログラムを実現した。

◇誘致展

写真団体や企業、新聞社と協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にヴァリエーションをもたらした。

総合開館20周年記念

夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 総集編

Dawn of Japanese Photography: The Anthology

期間：平成29年3月7日（火）～ 5月7日（日） 33日間（平成29年4月1日以降の開館日数）

会場：3階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網
協力：日本大学芸術学部／一般財団法人日本カメラ財団

総合開館20周年記念展覧会として開催。「知られざる日本写真開拓史」シリーズは、日本全国の美術館、博物館、資料館等の公開機関を有する施設が管理する幕末～明治期の写真・資料を調査し、体系化する試みとして、平成18年度の「関東編」を皮切りに隔年で4回に渡って地方編を開催した。本展は、「総集編」として、これを締めくくる。

出品作家：C.D.フレデリックス F.W.サットン H.R.マークス O.E.フリーマン A.F.ボードウィン イサイア・テイバー W.K.バルトン ウィリアム・シュー エイベル・ガウワー エリファレット・ブラウン・Jr ナダール ジャック＝フィリップ・ポトー シュティルフリード&アンデルセン チャールズ L. ウィード チャールズ・パーカー フランシス・L・ホークス フェリーチェ・ベアトネグレッティ&ザンブラ社 ミルトン・ミラー ミヒヤエル・モーザー ライムント・フォン・シュティルフリート 井田倅吉 井上俊三 岩田恒吉 上野彦馬 鶴飼玉川 臼井秀三郎 宇宿彦右衛門ら 内田九一 三代目歌川広重 江木松四郎 江崎禮二 江崎写真館 小川一真 笈三友 鹿島清兵衛 金井弥一 川崎道民 菊池新学 日下部金兵衛 工藤利三郎 小島柳蛙 小谷荘治郎 小見山信良 佐久間範造 清水東谷 下岡蓮杖 鈴木真一 鈴木捉雲 武林盛一 田中武 田中美代治 田本研造 塚本楊東 鶴淵初蔵 伝・島津斉彬 東京松声堂 富重利平 中浜万次郎(?) 中郷雅朝 信夫左司馬 二見朝隈 堀江欽二郎 堀与兵衛 牧元次郎 松崎晋二 丸木利陽 三嶋常磐 宮内幸太郎 横山松三郎 吉田好二(金沢公園) 陸地測量部 為政虎三 芝辻貞吉 村田(東京浅草公園写真師竹山堂) 中根牛介 坪井為春 内田写真館 日下部金兵衛 武林盛一 豊原国周 落合芳幾 (山内家写場) 制作者不詳

出品点数：374点（展示替有）

入場者数：19,531人（平成29年3月7日～5月7日）

企画：三井圭司

展覧会図録

『知られざる日本写真開拓史』

Dawn of Japanese Photography: The Anthology

執筆者：福原義春、高橋則英、ルーク・ガートラン、谷昭佳、三井圭司

編集：東京都写真美術館

発行：山川出版社



総合開館20周年記念

山崎博 計画と偶然

YAMAZAKI HIROSHI / CONCEPTS AND INCIDENTS:

A RETROSPECTIVE FROM THE LATE SIXTIES ONWARDS

期間：平成29年3月7日（火）～ 5月10日（水） 35日間（平成29年4月1日以降の開館日数）

会場：2階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網

写真・映像を「時間と光」というエッセンスによって捉え、1960年代末より活躍してきた作家・山崎博の仕事をとどる公立美術館で初めての展覧会。長時間露光によって太陽の光跡を視覚化した代表シリーズ〈HELIOGRAPHY〉をはじめ、〈水平線採集〉や〈桜〉のシリーズなど代表的な写真作品と、また作家が写真と平行して追究してきた映像作品、さらに新作を含む出品点数211点によって、現代のコンセプチュアルな写真・映像の先駆者・山崎博の歩みを今日的な視点から通覧した。

出品点数：211点

入場者数：15,059人（平成29年3月7日～5月10日）

企画：石田哲朗

展覧会図録

『山崎博 計画と偶然』

YAMAZAKI HIROSHI / CONCEPTS AND INCIDENTS

執筆者：光田ゆり、北野謙、石田哲朗

編集：東京都写真美術館

発行：武蔵野美術大学出版局



総合開館20周年記念

TOPコレクション いま、ここにいるー

平成をスクロールする 春期

20 Year Anniversary

TOP Collection: Scrolling Through Heisei Part1

In the Here and Now

期間：平成29年5月13日（土）～7月9日（日）50日間
会場：3階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館
協賛：凸版印刷株式会社

総合開館20周年記念TOPコレクションとして開催。平成年代に活躍を続けている日本の作家を中心に「平成をスクロールする」と題し、春期、夏期、秋期の3期にわたって、それぞれテーマを設けて展開した。春期は「いま、ここにいる」をテーマとし、90点の写真作品を展示した。写真とは、「いま、ここにいる」ことの記録であり、そこには作家それぞれの世界との関わり方が表れている。日常と非日常、またはその狭間で、作家はどのように世界と向き合い、「いま、ここにいる」ことの意味を考えてきたのか。そうした問いを立てつつ、今日の社会や文化をめぐる状況を踏まえて出品作品をひも解き、平成という時代を振り返った。

出品作家：佐内正史 ホンマタカシ 高橋恭司 今井智己 松江泰治
安村崇 花代 野村佐紀子 笹岡啓子
出品点数：90点
入場者数：13,810人
企画：伊藤貴弘

展覧会図録

『TOPコレクション 平成をスクロールする』
TOP Collection: Scrolling Through Heisei
*3期合同図録
執筆：石田哲朗、伊藤貴弘、武内厚子
編集・発行：東京都写真美術館



総合開館20周年記念

TOPコレクション コミュニケーションと孤独ー

平成をスクロールする 夏期

20 Year Anniversary

TOP Collection: Scrolling Through Heisei Part 2

Communication and Solitude

期間：平成29年7月15日（土）～9月18日（月・祝）57日間
会場：3階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館
協賛：凸版印刷株式会社

毎年一つの共通テーマで、三期にわたって東京都写真美術館のコレクションを紹介する展覧会シリーズ「TOPコレクション」。本展は、2017年のテーマ「平成をスクロールする」の第2期目として開催した。メールやインターネットの普及、肖像権侵害や、コミュニケーション障害や孤独死など、おもに平成という現代に起きた現象により、他者とのコミュニケーションのはかり方、人やものとの距離の取り方は変化し、複雑化が進んでいる。本展では、写真という直接何かと対峙しコミュニケーションを必要とするメディアによって作品を制作する作家たちが、こうした状況のなかで、何を撮影し、表現しようとしているのか、また、作家と被写体そして鑑賞者との関係性にはどのような変化が起きているのかなど、時代とともに変化してきたコミュニケーションありかたを通覧した。

出品作家：北島敬三 中村ハルコ やなぎみわ 森村泰昌 石内都
大塚千野 菊地智子 ホンマタカシ 高橋ジュンコ オノデラユキ 林
ナツミ 屋代敏博 郡山総一郎 津田隆志
出品点数：114点
入場者数：18,582人
企画：武内厚子

展覧会図録

『TOPコレクション 平成をスクロールする』
TOP Collection: Scrolling Through Heisei
*3期合同図録
執筆：石田哲朗、伊藤貴弘、武内厚子
編集・発行：東京都写真美術館



エクスパンデッド・シネマ再考

Japanese Expanded Cinema Revisited

期間：平成29年8月15日（火）～10月15日（日）54日間
会場：地下1階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館

協賛：凸版印刷株式会社

1960年代半ばから欧米を中心に、従来の映画館等での投影とは異なった上映方法、形態として、美術家や実験映像作家によって展開された「エクスパンデッド・シネマ（拡張映画）」。「本展では、その実験が早かった日本の作品に着目し、当時の映像史の枠組みの変容をたどり、その独自性と先見性を当館の映像コレクションを中心に検証した。

出品作家：松本俊夫、シュウゾウ・アヅチ・ガリバー、飯村隆彦、おおいまのり、真鍋博、城之内元晴、佐々木美智子、金坂健二、ジャド・ヤルカット

出品点数：（作品）13点、（資料）110点

入場者数：11,677人

企画：田坂博子

展覧会図録

『エクスパンデッド・シネマ再考』

Japanese Expanded Cinema Revisited

執筆者：平沢剛、ジュリアン・ロス、田坂博子

編集：黒川典星（グラムブックス）・東京都写真美術館

発行：東京都写真美術館



総合開館20周年記念

TOPコレクション シンクロニシティー

平成をスクロールする 秋期

20 Year Anniversary

TOP Collection: Scrolling Through Heisei Part3

Synchronicity

期間：平成29年 9月23日（土・祝）～11月26日（日）56日間
会場：3階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館

協賛：凸版印刷株式会社

「平成」という時代を全体テーマとするTOPコレクション展シリーズの3回目。「シンクロニシティ（時を共にすること）」をキーワードに、私たちの生きている場所、この時代とその表現を通覧し、多様な表現傾向をもった平成の作家たちが伝えるそれぞれのリアリティと、その響き合いに焦点を当てた。出品作家18名による出品作品137点のうち81点が当館初出品となり、これまでの収蔵展とは異なる新しい印象を与えることができた。展示内容には休館中の計画的な作品収集の成果が表れた。来場者の反応としても、「平成」の写真表現の多様性や時代性を感じ取ることができた点で、共感的な意見が多数を占めた。

出品作家：原美樹子 朝海陽子 田村彰英 金村修 土田ヒロミ 川内倫子 野口里佳 浜田涼 都築響一 米田知子 志賀理江子 新井卓 大森克己 北野謙 鷹野隆大 春木麻衣子 澤田知子 蜷川実花

出品点数：137点

入場者数：15,517人

企画：石田哲朗

展覧会図録

『TOPコレクション 平成をスクロールする』

TOP Collection: Scrolling Through Heisei

*3期合同図録

執筆者：石田哲朗、伊藤貴弘、武内厚子

編集・発行：東京都写真美術館



TOP Collection

アジェのインスピレーション

ひきつがれる精神

TOP Collection

Eugène Atget: The Eternal Inspiration

期間：平成29年12月2日（土）～平成30年1月28日（日）47日間

会場：3階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館

1980年代末から90年代後半まで、東京都写真美術館が数回にわたって収集したウジェーヌ・アジェ作品の一部とともに、アジェの先達や同時代、アジェ以降のアメリカと日本の写真家たちの作品を展示し、写真独自の特性と魅力に迫ろうとした。

出品作家：ジャン＝ルイ・アンリ・ル・セック シャルル・マルヴィル アルフレッド・スティーグリッツ マン・レイ ウジェーヌ・アジェ ペレニス・アボット ウォーカー・エヴァンズ リー・フリードランダー 森山大道 荒木経惟 深瀬昌久 清野賀子
出品点数：158点
入場者数：20,811人
企画：鈴木佳子

展覧会図録

『アジェのインスピレーション ひきつがれる精神』

Eugène Atget: The Eternal Inspiration

執筆：鈴木佳子、石田哲朗

編集・発行：東京都写真美術館



『光画』と新興写真 モダニズムの日本

The Magazine and the New Photography: Koga and Japanese Modernism

期間：平成30年3月6日（火）～5月6日（日）23日間（平成30年3月31日までの開館日数）

会場：3階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網

本展は1930年前後に日本の写真史の中で盛んとなっていた「新興写真」に注目した展覧会。「新興写真」とはドイツの新月主義（ノイエザッハリヒカイト）やシュルレアリスムなどの影響をうけ、それまでのピクトリアリズム（絵画主義写真）とは異なり、カメラやレンズによる機械性を生かし、写真でしかできないような表現をめざした動向。『光画』とは1932年から1933年までわずか2年足らずしか発行されなかった写真同人雑誌。今回はこの雑誌に掲載された写真を中心に、新興写真に影響を与えた海外写真家の作品とその後の写真表現を展観した。

出品作家：ヴァルター・ペーター・ハンス ヴァルター・ファンカート イヴァ・ヘッダ・ヴァルター ラースロー・モホイ＝ナジ ウンボ・ヘルベルト・バイヤー リー・ミラー ペーター・ヴェラー チャールズ・シーラー ビクター・ケプラー マーガレット・パーク＝ホワイト 青木 春雄 飯田 幸次郎 井深微 大東元 岡野一 恩地孝四郎 金丸重嶺 木村専一 木村伊兵衛 窪川得三郎 小石清 河野徹 高麗清治 佐久間 兵衛 佐藤虹児 佐溝勢光 島村紫陽 椎原治 田島二男 樽井芳雄 富本憲吉 中山岩太 長峰利一 名取洋之助 永田一脩 錦古里孝治 野島康三 濱谷浩 ハナヤ勤兵衛 花輪銀吾 林忠彦 平井輝七 古川成俊 堀野正雄 堀不佐夫 紅谷吉之助 松原重三 三浦義次 光墨弘 安井伸治 山川健一郎 山内光 山本悞右 矢野修二 吉川富三 吉崎一人 吉澤弘 若柳義太郎
出品点数：140点
入場者数：4,832人（平成30年3月31日現在）
企画：藤村里美

展覧会図録

『『光画』と新興写真 モダニズムの日本』

『The Magazine and the New Photography: Koga and Japanese Modernism』

執筆：谷口英理、藤村里美

編集：東京都写真美術館、国書刊行会

発行：国書刊行会



自主企画展

総合開館20周年記念

ダヤニータ・シン

インドの大きな家の美術館

Dayanita Singh, Museum Bhavan

期間：平成29年5月20日（土）～7月17日（月・祝）51日間

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／朝日新聞社
協賛：東京都写真美術館支援会員／凸版印刷／資生堂
協力：全日本空輸

今、世界で最も活躍の著しい写真家のひとり、ダヤニータ・シン。総合開館20周年記念展として彼女の展覧会を開催した。欧米雑誌のカメラマンとしてキャリアを開始したダヤニータ・シンだが、徐々に外国人が望むエキゾチックで混沌とした貧しいインドのステレオタイプなイメージに疑問を持ち、1990年代後半にフォトジャーナリストとしての仕事を完全に辞め、アーティストとしての活動を開始する。近年は移動式の「美術館」を考案し、全体を《インドの大きな家の美術館（Museum Bhavan）》と名付けた。詩的で美しい世界のなかに、現代写真・美術が抱える美術館システムやマーケット等の問題、現代社会におけるセクシュアリティや、格差、階級、ジェンダー、アーカイブ、情報等の様々な問題が示唆されている。また、従来の写真や写真集という概念を超えて、写真というメディアの新たな可能性を切り開き、今後の写真のあり方を考える上でも示唆に富む。本展覧会は、ダヤニータ・シンの初期の代表作《マイセルフ・モナ・アハメド》（1989-2001年）、《第3の性》（1991-93年）、《私としての私》（1999年）から、転機となった《セント・ア・レター》（2007年）を導入部に、最新作を含むダヤニータ・シンの「美術館」を日本初公開し、日本の美術館では初の個展となるダヤニータ・シンの世界を展開した。

出品点数：11点
入場者数：14,964人
企画：笠原美智子

展覧会図録

『ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館』

Dayanita Singh, Museum Bhavan

執筆者：笠原美智子、アヴィーク・セン

編集：鈴木佳子、遠藤みゆき

発行：東京都写真美術館



総合開館20周年記念

荒木経惟 センチメンタルな旅 1971-2017-

ARAKI Nobuyoshi: Sentimental Journey 1971-2017-

期間：平成29年7月25日（火）～9月24日（日）54日間

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／産経新聞社
協賛：資生堂／東京都写真美術館支援会員
協力：写真弘社

本展は作家の膨大な作品群からもっとも重要な被写体である妻「陽子」というひとつのテーマに絞り込み、陽子自身を被写体とする作品、あるいは陽子との深い関わりを持つ作品、死後もなおその存在を深くかんじさせる作品によって構成した。荒木自らが「陽子によって写真家になった」と語るように、妻、陽子は1960年代の出会いから1990年代のその死に至るまでもっとも重要な被写体であり、死後もなお荒木に多大なる影響を与え続けてきた。本展では陽子というテーマに被写体との関係を探り、荒木の写真の神髄である「私写真」について考察した。

出品点数：1,320点
入場者数：40,088人
企画：北澤ひろみ

展覧会図録

『荒木経惟 センチメンタルな旅 1971-2017-』

ARAKI Nobuyoshi Sentimental Journey 1971-2017-

執筆者：笠原美智子、北澤ひろみ

エッセイ：荒木経惟、荒木陽子、石内都、伊藤俊治、古屋誠一、吉増剛造、森山大道、ユルゲン・テラー、フィリッポ・マッジョ

編集：北澤ひろみ、中村水絵 (HeHe)

発行：HeHe



長島有里枝

そしてひとつまみの皮肉と、愛を少々。

Nagashima Yurie

And a Pinch of Irony with a Hint of Love

期間：平成29年9月30日(土)～11月26日(日) 50日間

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
助成：芸術文化振興基金
協賛：株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／東京都写真美術館支援会員

デビュー以来、社会における「家族」や「女性」のあり方への違和感を作品で問い続けてきた、長島有里枝の公立美術館では初めての個展。ラディカルさとしなやかさをあわせ持つ、パーソナルな視点にもとづいた長島の表現は、若い世代を中心に支持され、国際的にも評価が高まっている。本展では、初期を代表する〈Self-portrait〉や〈家族〉、90年代のユースカルチャーを切り取った〈empty white room〉のシリーズに始まり、アメリカ留学中の作品、2007年にスイスのアーティスト・イン・レジデンスで滞在制作をした植物の連作、女性のライフコースに焦点を当てた新作までを一堂に展示。作家の「今」が色濃く反映された現在の作品とともに、これまでの歩みを振り返り、パーソナルかつポリティカルな視点にもとづく写真表現の可能性を探った。

出品点数：208点

入場者数：17,216人

企画：伊藤貴弘

展覧会図録

『長島有里枝 そしてひとつまみの皮肉と、愛を少々。』

Nagashima Yurie: And a Pinch of Irony with a Hint of Love

執筆：レスリー・マーティン、野中モモ、伊藤貴弘

編集・発行：東京都写真美術館



無垢と経験の写真

日本の新進作家 vol. 14

Photographs of Innocence and of Experience

Contemporary Japanese Photography vol. 14

期間：平成29年12月2日(土)～平成30年1月28日(日) 47日間

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
協賛：凸版印刷株式会社／東京都写真美術館支援会員

2002年より開催している「日本の新進作家」展の第14回目。「無垢と経験の写真」と題して、5名の作家を紹介した。身体性やアイデンティティを確認しながらセルフ・ポートレイトを制作し続ける片山真理、家族の関係を写真行為を通して繰り返し問う金山貴宏、窓や鏡に映った風景をそのまま定着して写真として残そうとする鈴木のだみ、自然作用の痕跡を印画紙やネガそのものにカメラレスで記録する武田慎平らの近作・最新作を一堂に会し、多様な写真表現のアプローチで現在を再考する展覧会となった。

出品作家：片山真理 金山貴宏 鈴木のだみ 武田慎平 吉野英理香

出品点数：108点他

入場者数：17,046人

企画：丹羽晴美

展覧会図録

『無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol. 14』

Photographs of Innocence and of Experience:

Contemporary Japanese Photography vol. 14

執筆：丹羽晴美

編集・発行：東京都写真美術館



第10回恵比寿映像祭「インヴィジブル」

Yebisu International Festival for Art & Alternative

Visions 2018:

Mapping the Invisible

期間：平成30年2月9日（金）～2月25日（日）15日間

主催：東京都／東京都写真美術館・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）／日本経済新聞社
共催：サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館
後援：オーストラリア大使館／オランダ王国大使館／カナダ大使館／タイ王国大使館／ミャンマー連邦共和国大使館／TBS/J-WAVE 81.3FM
協賛：全日本空輸株式会社／ゲーテ・インスティトゥート 東京ドイツ文化センター／サッポロビール株式会社／東京都写真美術館支援会員
協力：アンスティチュ・フランセ日本・ヴィラ九条山／びあ株式会社／ドゥービー・カンパニー株式会社／株式会社ロボット

第10回恵比寿映像祭は、「インヴィジブル」を総合テーマに、映像が映し出す不可視性について考察した。また、第1回からこれまで総勢840名以上に及ぶ作家とゲストが集って来たフェスティバルとして10年を迎える記念すべき開催となった。今回は、25カ国の国と地域より94組の作家およびゲストが出品・参加し、東京都写真美術館全館フロア、恵比寿ガーデンプレイス内のザ・ガーデンルーム、センター広場や日仏会館、地域連携各所などの複合会場で、展示、上映、ライブ・イベント、シンポジウム、ラウンジトーク、ガイドツアーなど多彩なプログラムを展開した。

展示（会場：東京都写真美術館 3階、2階、地下1階展示室および3階、地下1階ロビー）

ラファエル・ローゼンダール／ポール・シャリッツ／ガブリエル・エレラ・トレス／永田康祐／mamoru／コティングリー妖精写真および関連資料／出光真子／ジェイ・チュン&キユウ・タケキ・マエダ／清野賀子／青柳菜摘／ジェームス・リチャーズ／高嶋晋一＋中川周／横溝静／ナターシャ・ニジック&墓丸謙／マルティヌ・シムズ／スッティラット・スパパリンヤ／エルカン・オズケン

ラウンジトーク（会場：東京都写真美術館 2階ロビー）

マルティヌ・シムズ／ナターシャ・ニジック&墓丸謙／SHIMURAbros／スッティラット・スパパリンヤ／ラファエル・ローゼンダール／井村君江、浜野志保（コティングリー妖精写真および関連資料）／永田康祐／高嶋晋一＋中川周／松原健、飯沢耕太郎【地域連携プログラム MA2 Gallery】／青柳菜摘／invisible designs lab.、木ノ下智恵子

オフサイト展示（会場：恵比寿ガーデンプレイス センター広場）

invisible designs lab.

展示（会場：日仏会館 2階ギャラリー）

SHIMURAbros
（参考上映展示）日仏共催シンポジウム「映像のヴィジブル／インヴィジブル——8K映像の可能性」

上映（会場：東京都写真美術館 1階ホール）

①透かしみる1——ピクセルの裏側 ジャパン・プレミア（ゲスト：ジュリアン・ロス）②透かしみる2——舞台裏 ジャパン・プレミア（ゲスト：ジュリアン・ロス、荒木悠）③ザ・インヴィジブル・ハンズ——アラブの春とアラブ・ビショップ、そしてまた歌が始まる アジア・プレミア ④ミディ・ジエ

が描くミャンマーの労働者 ジャパン・プレミア ⑤不可視であるなら、私が。出光真子おんなのさくひん（ゲスト：出光真子、服部かつゆき、森下明彦）⑥ジェイ・チュン&キユウ・タケキ・マエダ 関連プログラム レヴ・カルマン&ウィットニー・ホーン《L for Leisure》ジャパン・プレミア ⑦ミャンマー・インディ映画の新しい波——ワッタン映画祭セレクション ジャパン・プレミア（ゲスト：清恵子）⑧頭の中の声——見えないものとのランデヴー ランデヴー・ウィズ・マッドネス映画祭セレクション アジア・プレミア（ゲスト：スコット・ミラー・ベリー、ステイーヴ・サンゲドルチェ）⑨DigiCon6 ASIA——ショートムービーから見えてくるアジア（ゲスト：竹内海南江、山田亜樹）⑩岡部道男特集——アンダーグラウンドとキャンプ [16ミリフィルム上映]（ゲスト：ジョナサン M. ホール）⑪岡部道男特集 上映＋スペシャルトーク [16ミリフィルム上映]（ゲスト：岡部道男、鈴木章浩）⑫《略称・連続射殺魔》[35ミリフィルム上映]（ゲスト：足立正生）⑬《ナイトクルージング》Yebizo特別版（ライブ音声解説付）上映＋スペシャルトーク（ゲスト：佐々木誠、加藤秀幸、田中みゆき）

シンポジウム（会場：東京都写真美術館 1階ホール）

A. 国際シンポジウム 不可視性について（パネリスト：キユウ・タケキ・マエダ、清恵子、白石嘉治）／B. [コラボラティブ・カタロギング・ジャパン（CCJ）共催企画] 国際連携シンポジウム タイムベースド・メディアの収集保存——ニューヨーク近代美術館、アンソロジー・フィルム・アーカイヴス、東京都写真美術館の事例から（パネリスト：ジョン・クラックスマン、ピーター・オレクシク、田中信至、足立アン）

日仏会館共催企画 シンポジウム（会場：日仏会館 ホール）

C. [日仏会館共催企画] 映像のヴィジブル／インヴィジブル——8K映像の可能性（パネリスト：落合淳、三浦篤、矢野数馬、原田大三郎）

ライブイベント（会場：ザ・ガーデンルーム）

I. mamoru ライブ・パフォーマンス：あり得た（る）かもしれないその歴史を聴き取ろうとし続けるある種の長い旅路、特に日本人やオランダ人その他もろもろに関して（出演：mamoru、河合真人、So Oishi、チュン・チャーイー）／II. エクスパンデッド・シネマ・パフォーマンス：Beyond the Frame（出演：宮井陸郎、大城真、平沢剛）

関連コーナー（会場：東京都写真美術館 2階ロビー、地下1階展示室、1階スタジオ）

10周年記念アーカイブコーナー、10周年記念映像、10周年記念ポスター展示

地域発信プロジェクト（会場：東京都写真美術館 1階スタジオ）

①「YEBIZO MEETS」I 特別セッション 東京から発信する映画・映像祭の「今」（ゲスト：市山尚三、荒木啓子、東野正剛）②「YEBIZO MEETS」II 地域発信トーク：NPO法人アーツインシアティヴトウキョウ 視覚の果て：アーティストが見えない世界をどう描いてきたか（レクチャー：ロジャー・マクドナルド）③「YEBIZO MEETS」III リンクセッション：グラスルーツアートプロジェクトを検証 実験的アートギャラリー statements／アサクサの事例から（ゲスト：兼平彦太郎、大坂紘一郎）④「YEBIZO MEETS」IV 地域連携発信 特別イベント 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ in恵比寿映像祭

地域連携プログラム（会場：地域連携各所）

公益財団法人日仏会館／YEBISU GARDEN CINEMA／伊東建築塾／MA2 Gallery／CAGE GALLERY／Gallery 工房親／MuCuL／NADiff a/pa/r/t／G/P gallery／MEM／Galerie LIBRAIRIE6／AL（企画：TRAUMARIS）／AIT [NPO法人アーツ・インシアティヴ・トウキョウ]／LOKO GALLERY（企画：LOKO GALLERY | イスラエル大使館）

※本事業は、「東京文化プログラム」（アーツカウンシル東京・フェスティバル事業）の一環として開催した。

出品点数：計95点（展示作品44点／上映作品45点／オフサイト作品1点／ライブ作品5点）

入場者数：70,782人（※地域連携プログラム含むフェスティバル総数：77,669人）

企画：田坂博子、岡村恵子、多田かおり、遠藤みゆき、清水裕、印牧雅子、ソニア・ルイズ・フリエル、堀江映予、柳生みゆき

展覧会図録

「第10回恵比寿映像祭 インヴィジブル」(公式パンフレット)

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2018:

Mapping the Invisible

執筆者：田坂博子、岡村恵子、木ノ下智恵子、多田かおり、遠藤みゆき、

清水裕、印牧雅子、ソニア・ルイズ・フリエル、堀江映予、柳生みゆき

編集：東京都写真美術館、現代企画室

発行：東京都写真美術館

写真発祥地の原風景 長崎

Geneses of Photography in Japan: Nagasaki

期間：平成30年3月6日(火)～5月6日(日) 23日間(平成30年3月31日までの開館日数)

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／国立大学法人長崎大学／読売新聞社／美術館連絡協議会

協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網／東京都写真美術館支援会員

協力：長崎県／長崎県観光連盟／長崎市／長崎歴史文化博物館

後援：オランダ王国大使館

日本の写真発祥地では、開国と同時に写真制作がはじまり、近代化の歴史は写真によって記録された。写真の普及が早ければ早いほど、その土地の写真は多くなる。海外に開かれた港町として栄えた“異域”長崎には、外国人写真師が訪れて写真を制作。一方、日本人写真師も誕生し、日本の写真文化が開花する核となった。本展は、長崎学に造詣の深い姫野順一博士（長崎外国語大学特任教授・長崎大学名誉教授）監修のもと、「明治150年」を記念するとともに長崎大学附属図書館の幕末・明治期日本の写真データベース公開20周年を記念し、同大学と共同で開催した。

出品作家：A.F.ボードウィン フェリーチェ・ベアト プロイセン東アジア遠征団写真班 ミヒャエル・モーザー ミルトン・ミラー ポンペ・メーデルフォールト ライムント・フォン・シュティルフリート 磯野文齋 宇宿彦衛門ら 内田九一 栄寿堂 花島富三郎 玉村康三郎 司馬江漢 小野左右輔 松浦東溪 上野俊之丞 上野彦馬 成瀬石痴 清河武安 饒田西晴 川原慶賀 川本幸民 打橋竹雲 大島文次右衛門 薛信一・信二郎 竹下佳治 為政虎三 富重利平 堀江鉄次郎 矢次辰三 渡辺忠章 日本大学芸術学部初期写真技術復元研究プロジェクトチーム 縄屋 富嶋屋 文錦堂 本石灰町鄰華堂 大和屋 Hウェプスター&Co. クリフォード&Co. ルーチ&Co. 制作者不詳

出品作品数：304点

入場者数：4,079人（平成30年3月31日現在）

企画：三井圭司

展覧会図録

『写真発祥地の原風景 長崎』

Geneses of Photography in Japan: Nagasaki

執筆者：河野茂、姫野順一、天野圭吾、三井圭司

編集：リゲル社

発行：東京都写真美術館



誘致展

フォトジャーナリスト 長倉洋海の眼 地を這い、未来へ駆ける Eyes of photojournalist, Hiromi Nagakura – crawl and run towards the future

期間：平成29年3月25日（土）～ 5月14日（日） 39日間（平成29年4月1日以降の開館日数）
会場：地下1階展示室

主催：クレヴィス
共催：東京都写真美術館
後援：公益社団法人日本写真協会／公益社団法人日本写真家協会
協賛：キャノンマーケティング株式会社

世界の紛争地や辺境の地を旅し、そこに生きる人間そのものの姿を捉えた37年間のドキュメント。長倉洋海は、氾濫する情報や経済・効率優先の風潮に流されず、現場で感じた大切なものを伝えるために、写真を撮り続けてきた。「どんな時代であろうと人と出会い、人を見つめることでしか次の時代も新たな世界も見えてこない」。長倉洋海の写真はそう私たちに語りかける。本展は代表作から近作まで「激動の世界」で捉えた作品169点を展示した。

出品点数：169点
入場者数：9,411人（平成29年3月25日～5月14日）

展覧会図録

『フォトジャーナリスト 長倉洋海の眼』
Eyes of photojournalist, Hiromi Nagakura-crawl and run towards the future
編集・発行：クレヴィス



第42回 2017 JPS展

日本写真家協会

2017 The 42nd Exhibition of The JPS

期間：平成29年5月20日（土）～ 6月4日（日） 14日間
会場：地下1階展示室

主催：公益社団法人日本写真家協会
共催：東京都写真美術館
後援：文化庁／東京都

昭和51（1976）年に、自由で豊かな発想で写真という魅力的なメディアをより深く知ってもらうために始った。デジタル写真の急速で広範な発展もあり、JPS展に対する関心も高まり、毎年多数の応募を記録するようになった。作品内容、技術水準も高く、写真展として高い評価を受け、今や写真家協会の活動の核のひとつとなり、写真の世界で注目されている。

出品点数：659点
入場者数：4,344人

展覧会図録

『第42回 JPS展 作品集』
発行：公益社団法人日本写真家協会



世界報道写真展2017

World Press Photo 17

期間：平成29年6月10日(土)～8月6日(日) 50日間
会場：地下1階展示室

主催：世界報道写真財団／朝日新聞社
共催：東京都写真美術館
後援：オランダ王国大使館／公益社団法人日本写真協会／公益社団法人日本写真家協会／全日本写真連盟
協賛：キャノンマーケティングジャパン株式会社

毎年恒例の世界報道写真展。前年に世界中で撮影、報道された写真を対象にした世界報道写真コンテストが、オランダのアムステルダムで開催され、今年は125の国と地域から5,034人のフォトグラファーが参加し、8万点を超える作品を応募した。本展では、その中から選ばれた大賞など約150点の入賞作品を紹介。今年の大賞はトルコの首都アンカラで開かれた写真展の開会式で、警察官が駐トルコ・ロシア大使を射殺した事件を捉えたブルハン・オズビリジ氏(トルコ)の作品が選ばれた。世界を駆け巡ったニュースや現代社会が抱える問題、スポーツの決定的瞬間など、同じ時代を生きる人たちの、普段目にすることが少ない現実を写真から知ることのできる貴重な展覧会となった。

出品点数：約150点
入場者数：31,183人

展覧会図録

『WORLD PRESS PHOTO 2017』

編集：世界報道写真財団

発行：シュルト出版

写真新世紀展2017

New Cosmos of Photography 2017

期間：平成29年10月21日(土)～11月19日(日) 26日間
会場：地下1階展示室

主催：キャノン株式会社
共催：東京都写真美術館

キャノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘・育成・支援を目的として1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。本展の応募人数は1,705名。出品者数は20名(うち2名が1組グループ)、優秀賞7組8名、佳作11名、前年度グランプリ受賞者1名。審査員：アレック・ソス(写真家)、サンドラ・フィリップス(サンフランシスコMOMA・キュレーター)、ダヤニータ・シン(アーティスト)、上田義彦(写真家)、さわひらき(美術家)、澤田知子(アーティスト)、清水穰(写真評論家) [敬称略]。関連イベントとして11月10日(金)「グランプリ選出公開審査会・表彰式」(会場：1階ホール)をはじめ、会期中にアーティスト・トーク、ポートフォリオ・レビュー、映像レクチャー、写真レクチャーを開催した。

出品点数：142点(写真作品134点、映像8作品)
入場者数：9,049人



生誕100年 ユージン・スミス写真展

W. Eugene Smith: A Life in Photography

期間：平成29年11月25日（土）～平成30年1月28日（日）53日間
会場：地下1階展示室

主催：クレヴィス
共催：東京都写真美術館
後援：公益社団法人日本写真協会／公益社団法人日本写真家協会
協賛：株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン
協力：アリゾナ大学クリエイティブ写真センター／日本航空

写真史上もっとも偉大なドキュメンタリー写真家のひとりであるW. ユージン・スミス (1918-1978) の生誕100年を回顧した展覧会。スミスはグラフィック雑誌『ライフ』を中心に「カントリー・ドクター」、「スペインの村」、「助産師モード」、「慈悲の人」など数多くの優れたフォト・エッセイを発表し、フォト・ジャーナリズムの歴史に多大な功績を残した。

とりわけ日本とのかかわりが深く、17歳のときニューヨークで偶然であった日系写真家の作品について感銘をうけ写真の道を志すきっかけになったこと、太平洋戦争に従軍して、戦争の悲惨で冷酷な現実をカメラで世に伝えんとし自らも沖縄戦で重傷を負ったこと、戦後の日本経済復興の象徴ともいえる巨大企業を取材した「日立」、その経済復興の過程で生じた公害汚染に苦しむ「水俣」の漁民たちによりそった取材などがある。

本展覧会はスミス自身が生前にネガ、作品保管を寄託したアリゾナ大学クリエイティブ写真センターによる協力のもと、同館所蔵の貴重なヴィンテージ・プリント作品を展示し、ジャーナリズムの原点をいま一度見つめ直すきっかけとなった。

出品点数：150点
入場者数：27,610人

展覧会図録

『ユージン・スミス写真集』

執筆者：レベッカ・A.センプ、青柳正規、アイリーン・美緒子・スミス、ケヴィン・ユージン・スミス、野町和嘉
発行：クレヴィス



APAアワード2018

第46回 公益社団法人日本広告写真家協会公募展

APA AWARD 2018

期間：平成30年3月3日（土）～3月18日（日）14日間
会場：地下1階展示室

主催：公益社団法人日本広告写真家協会（APA）
共催：東京都写真美術館
後援：経済産業省／文化庁／東京都
協賛：エプソン販売株式会社／オリンパス株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社／株式会社玄光社／株式会社資生堂／ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社／株式会社ニコンイメージングジャパン／株式会社ビクトリコ／富士フイルムイメージングシステムズ株式会社／株式会社フレームマン／株式会社堀内カラー（五十音順）
協力：法人賛助会員各社

公益社団法人日本広告写真家協会が公募した「APAアワード2018」の入賞・入選作品を一堂に展示した。

広告作品部門は2016年1月1日から2017年8月31日までの期間に制作発表された印刷物を対象にした作品を、写真作品部門では、「挑戦・CHALLENGE」というテーマで一般公募された写真の中から、新たな表現へ挑戦した作品を展示した。

出品点数：広告作品部門299点 写真作品部門192点
入場者数：3,429人

展覧会図録

『年鑑 日本の広告写真2018』

Advertising Photography in Japan 2018
監修：公益社団法人日本広告写真家協会
編集・発行：玄光社

[併設] 第九回「全国学校図工・美術写真公募展」

主催：公益社団法人日本広告写真家協会（APA）
共催：全国造形教育連盟／東京都写真美術館
後援：文部科学省／東京都教育委員会／（財）教育美術振興会／（財）美育文化協会／公益社団法人日本写真協会
協賛：一般社団法人日本写真文化協会／学校法人池田学園 東京服飾専門学校／エプソン販売（株）／オリンパス（株）／キヤノンマーケティングジャパン（株）／（株）ニコンイメージングジャパン／富士フイルムイメージングシステムズ（株）／リコーイメージング（株）（五十音順）
協力：法人賛助会員各社



清里フォトアートミュージアム収蔵作品展

原点を、永遠に。—2018—

Kiyosato Museum of Photographic Arts

Basically. Forever. —2018—

期間：平成30年3月24日（土）～ 5月13日（日）7日間（平成30年3月31日までの開館日数）

会場：地下1階展示室

主催：清里フォトアートミュージアム

共催：東京都写真美術館

清里フォトアートミュージアム（K★MoPA）の全収蔵作品の中から、「写真家が35歳までに撮影した作品」を展示する。19世紀以降の海外の著名写真家や戦後の日本を代表する写真家、そして当館が世界の35歳以下を対象に行う公募=ヤング・ポートフォリオからの作品、計95人による409点を公開し、芸術における青年期の意義を問うもの。会期中に展示替えを行い、撮影年順の〈歴史篇〉では、青年が時代を切り拓いてきた軌跡をたどり、作家の名前をほぼアルファベット順に展示する〈作家篇〉では、一人ひとりの個性と写真の多様性に触れていただく。

出品点数：409点

入場者数：1,516人（平成30年3月31日現在）



スクール・プログラム

学校の児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して、豊かな体験学習が出来るように、小学校、中学校、高等学校、大学および各種学校の授業や活動、教職員の研修と連携し、スクールプログラムを実施した。

当館のスクールプログラムの特徴は、写真や映像作品の制作と作品鑑賞の両方を体験できることであり、表現と鑑賞の両面から、写真／映像の仕組みと楽しさを体験的に理解できる。

今年度はリニューアル後初めての通年開館であり、暗室など当館ならではの施設を利用し、主に当館に来館した学校に対してスクールプログラムをおこなったほか、学校という場所でしかできない特別授業についての学校からの依頼に応じて出前授業をおこなった。

実施回数：41回

参加人数：1,096人

暗室体験プログラム

A. フォトグラム

フォトグラム（フォトジェニック・ドローイング）は様々なものの影を、印画紙へ直接写し取る写真方式のこと。本プログラムでは、各自が持参した身の回りの日用品（布や紙、ガラスやプラスチックなど）を印画紙の上に並べて、暗室で現像作業を行い作品を制作する。カメラに頼らない自由な造形活動により、もののかたちの多様さを実感しながら写真ならではの光と影による表現とモノクロ銀塩写真の暗室作業プロセスを体験できる。



B. デジタルカメラの画像から白黒写真をプリントする

各自がデジタルカメラで撮影した写真画像を、事前に美術館に提出してもらいあらかじめ作成しておいたデジタルネガシートを用いて、暗室で白黒写真現像を体験する。デジタル画像だけでなく、

フィルムカメラ（モノクロネガフィルム）での現像体験も可能である。プログラムでは、1~2カットの画像を、段階露光や、フィルター調整、追い焼き、覆い焼きなどをおこないながら何度もプリントを繰り返し、だんだんと理想のプリントに近づけていった。



暗室体験プログラム

C. おどろき盤

おどろき盤（フェナキスチスコープ）は、19世紀を起源とするアニメーション装置。円盤型の紙に絵や図形を少しずつ変化させながら12コマ描き、それを鏡に向かって回転させ、盤上のスリットを通して鏡を見ることで、描いた絵が動画として知覚されるという仕組みのもの。このプログラムでは、おどろき盤に絵を描いて、それを鑑賞することを通してアニメーションの仕組みを楽しみながら体験的に学ぶことができる。また、どのようにしたら動いて見えるのかを自身で考えることによる能動的学習、自らが描くことによってアニメーション表現の体験的理解、仲間と互いにおどろき盤を覗くことでのコミュニケーションを伴った学習という3つの学びを楽しみながらおこなうことができる。



D. コマ撮りアニメーション

専用のソフトを搭載したパソコンやウェブカメラなどの機材を用いて、テーブル上の様々なモチーフをコマ撮り撮影し、アニメーションを制作する。アニメーションならではの映像表現の仕組みを知り、動かないものに命を与えるアニメーションの魅力と楽しさを体

験することができる。また、複数人がグループとなってひとつのアニメーションを作りあげる過程での、相互協力、リーダーシップ、意見の調整などさまざまな生きる力の学びをおこなうことができる。



作品鑑賞体験プログラム

E. 対話しながら作品を見てみよう

グループで一つの作品を鑑賞し、参加者それぞれが作品を見て気づいたことや感じたことを率直に話し合いながら見方を深めていく鑑賞方法。はじめにアイスブレイクとして当館オリジナルのかたちと言葉を組み合わせるゲームをおこない、思ったことを自由に話すことや友達と考えが違う事の楽しさを体験し、その後に展示室で作品を鑑賞する。お互いの発言を共有しつつ鑑賞を進めることで、一人では気づかなかった作品の魅力や多様な見方を知ることができるとともに、自ら能動的に鑑賞する体験がより深い学びと理解を生む。また、対話をしながら鑑賞することは、観察力、洞察力、想像力、傾聴力、発言力、語彙力など様々な力をはぐくむきっかけにもなり、豊かな鑑賞体験とともに、充実した言語活動を能動的に行うことができる。



平成29年度 スクールプログラム実績

	年月日	時間	団体名	対象・学年	授業区分	人数	実施場所	プログラム内容
1	4月12日(水)	15:00-16:30	東京工芸大学芸術学部 写真学科	大学生	授業等	20	当館3階展示室	日本写真開拓史展レクチャー
2	4月20日(木)		NHK文化センター 練馬光ヶ丘教室	一般学生		13	当館3階展示室	日本写真開拓史展レクチャー
3	4月27日(木)	18:00-20:00	学習院大学	大学生	学芸員課程	14	当館スタジオ、2階展示室	概要説明、山崎博展見学
4	5月9日(火)	10:00-12:00	東京造形大学	大学生	授業等	6	当館スタジオ、2階展示室	概要説明、山崎博展見学
5	5月19日(金)	10:00-12:00	山口県立大学	大学生	授業等	8	当館3階展示室	いま、ここにいる展レクチャー
6	6月16日(金)	14:00-16:00	東邦大学 看護学部	1年生	文化講座・ 美術	22	当館スタジオ	対話型作品鑑賞についてのレクチャー、展覧会自由見学
7	6月20日(火)	13:30-15:00	日本大学芸術学部 博物館実習	大学生	博物館 実習	21	当館スタジオ、ほか	概要説明、バックヤード見学
8	6月23日(金)	13:30-15:00	日本大学芸術学部 博物館実習	大学生	博物館 実習	19	当館スタジオ、ほか	概要説明、バックヤード見学
9	6月27日(火)	10:00-11:50	品川区立浅間台小学校	5-6年生	図画工作	56	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、対話型作品鑑賞(いま、ここにいる展)
10	6月28日(水)	17:00-18:00	東京芸術大学	大学生	現代芸術 概論I	33	当館2階展示室	ダヤニータ・シン展レクチャー
11	7月7日(金)	10:00-14:00	港区立御田小学校	4年生	図画工作	62	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、対話型作品鑑賞(いま、ここにいる展)
12	7月21日(金)	14:00-15:30	世田谷泉高校	写真部	写真部	6	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、対話型作品鑑賞(コミュニケーションと 孤独展)
13	7月25日(火)	14:00-16:30	荒川区図工部会	図工教員	教員研修	12	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、対話型作品鑑賞(コミュニケーションと 孤独展)
14	7月27日(木)	10:00-12:00	江戸川区立篠崎中学校	美術部	美術部	6	当館スタジオ、3階展示室	コマ撮りアニメーション、対話型作品鑑賞(コミュニ ケーションと孤独展)
15	7月27日(木)	13:30-16:00	狛江第一中学校	1-3年生	美術部	17	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、対話型作品鑑賞(コミュニケーションと 孤独展)
16	7月28日(金)	13:30-16:30	歴文財団ティーチャーズ プログラム	小・中・高等学校 教員	教員研修	14	当館スタジオ、3階展示室	概要説明、フォトグラム、対話型作品鑑賞(コミュニ ケーションと孤独展)
17	8月10日(木)	10:40-12:00	茨城県高等学校 文化連盟写真部会	1-3年生	部活動	60	当館スタジオ、3階展示室	概要説明、コミュニケーションと孤独展レクチャー
18	8月31日(木)	10:00-12:00	練馬区立旭丘中学校	1-2年生	美術部	8	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、対話型鑑賞(コミュニケーションと孤独 展)
19	9月13日(水)	14:30-16:30	中央区立図工部会	図工教員	教員研修	13	当館スタジオ、3階展示室	コマ撮りアニメーション、対話型鑑賞(コミュニケー ションと孤独展)
20	9月21日(木)	15:00-16:00	日本大学芸術学部	映画学科	美術館 研修	7	当館地下1階展示室	エクспанデッド・シネマ展レクチャー
21	9月21日(木)	19:00-20:00	東京大学	AMSEA(社会を 指向する芸術のた めのアートマネジ メント育成事業) グループ	美術館 研修	11	当館地下1階展示室	エクспанデッド・シネマ展レクチャー
22	9月26日(火)	10:00-12:00	公文国際学園中等部	1年生	インタレスト スタディーズ	21	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、対話型作品鑑賞(シンクロニシティ展)
23	10月5日(木)	9:45-11:35	練馬区立旭丘中学校	特別支援学級 1-3年生	美術	15	同校(出前授業)	青写真
24	10月17日(火)	10:00-12:00	東京造形大学	大学生	授業等	5	当館3階展示室	シンクロニシティ展レクチャー
25	10月19日(木)	11:00-12:00	東京藝術大学	美術学部芸術学科 1年	基礎造形 実技工	16	当館2階展示室	概要説明、長島有理枝展レクチャー
26	10月21日(土)	10:00-12:00	京都造形大学	通信教育部美術 科写真コース	美術館 研修a	26	当館スタジオ、2階展示室	概要説明、長島有理枝展レクチャー
27	10月21日(土)	13:00-14:00	一橋大学大学院	言語社会研究科	博物館 展示論	6	当館2階展示室	長島有理枝展レクチャー
28	10月29日(日)	13:00-14:30	写真表現大学	大学生	美術館 スタディ	17	当館2階展示室	長島有理枝展レクチャー
29	11月4日(土)	13:00-14:00	帝京科学大学	看護学科	美術と対話	15	当館スタジオ	対話型作品鑑賞についてのレクチャー、展覧会自由見学
30	11月9日(木)	10:30-12:30	NHK文化センター 横浜教室	一般学生	授業等	19	当館3階展示室	シンクロニシティ展レクチャー
31	11月10日(金)	14:00-16:00	日本大学 通信教育部	学芸員資格取得	授業等	10	当館3階展示室	概要説明、シンクロニシティ展レクチャー
32	11月24日(金)	14:00-16:00	東京ネットウェイブ	高校2年生	授業等	7	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、対話型作品鑑賞(シンクロニシティ展)
33	11月25日(土)	8:45-11:30	出前授業 港区立白金の丘小学校	5年生	図画工作	72	同校(出前授業)	おどろき盤、対話型作品鑑賞
34	12月5日(火)	10:00-12:10	渋谷区立加計塚小学校	3年生	図画工作	63	当館スタジオ、3階展示室	おどろき盤、対話型作品鑑賞(アジェのインスピレー ション展)
35	12月12日(火)	10:00-12:00	江戸川区立第三松江小学校	4年生	図画工作	97	当館スタジオ、3階展示室	おどろき盤、対話型作品鑑賞(アジェのインスピレー ション展)
36	12月15日(金)	10:00-12:30	筑波大付属 駒場中学・高等学校	3年生	美術(総合)	10	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、対話型作品鑑賞(アジェのインスピ レーション展)
37	12月19日(火)	13:15-15:05	渋谷区立加計塚小学校	5年生	図画工作	56	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、対話型作品鑑賞(アジェのインスピ レーション展)
38	12月21日(木)	10:00-12:00	渋谷区立加計塚小学校	4年生	図画工作	61	当館スタジオ、3階展示室	コマ撮りアニメーション、対話型作品鑑賞(アジェの インスピレーション展)
39	12月22日(金)	10:00-12:00	渋谷区立加計塚小学校	6年生	図画工作	59	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、対話型作品鑑賞(アジェのインスピ レーション展)
40	1月26日(金)	13:00-15:00	港区立白金の丘小学校	5年生	図画工作	68	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラム、対話型作品鑑賞(アジェのインスピ レーション展)
41	3月17日(土)	13:30-16:00	京都造形芸術大学 藝術学舎	一般学生	対話型鑑 賞術一冬・ 実践	25	当館地下1階学習室	対話型作品鑑賞についてのレクチャー
合計 41回 1,096人								

**教育普及事業
ワークショップ等**

パブリック・プログラム

教育普及事業として、写真、映像、美術に親しみ、作品をより深く理解するためのパブリックプログラムを実施した。今年度からは従来の実技・制作系のプログラムに加えて、鑑賞系プログラムも充実し、子供から大人、初心者から上級者までのより幅広い層を対象とした活動を展開した。

テーマ	講師	開催日	参加人数	参加費
古典技法ワークショップ 鶏卵紙プリントワークショップ (Aコース)	エバレット・ブラウン(元EPA通信日本支局長/ブラウンスフィールド代表)	平成29年4月22日(土)	17	一般5,000円 学生3,500円
古典技法ワークショップ 鶏卵紙プリントワークショップ (Bコース)	エバレット・ブラウン(元EPA通信日本支局長/ブラウンスフィールド代表)	平成29年4月23日(日)	18	一般5,000円 学生3,500円
視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ 春期(Aコース)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	平成29年5月28日(日)	6	500円
視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ 春期(Bコース)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	平成29年6月4日(日)	7	500円
モノクロ銀塩プリントワークショップ (A/Bコース)	当館スタッフ	平成29年6月17日(土)	17	銀塩ネガフィルムご使用の場合:一般4,000円 学生3,000円 中高生2,000円 デジタル画像ご使用の場合:一般5,000円 学生4,000円 中高生3,000円(デジタルネガフィルム代含む)
モノクロ銀塩プリントワークショップ (C/Dコース)	当館スタッフ	平成29年6月24日(土)	20	銀塩ネガフィルムご使用の場合:一般4,000円 学生3,000円 中高生2,000円 デジタル画像ご使用の場合:一般5,000円 学生4,000円 中高生3,000円(デジタルネガフィルム代含む)
じっくり見たり、つったりしよう!春期 (Aコース)	当館スタッフ	平成29年6月25日(日)	22	一組800円 小学生とその保護者
じっくり見たり、つったりしよう!春期 (Bコース)	当館スタッフ	平成29年7月2日(日)	14	一組800円 小学生とその保護者
クロマキールランド どこでも記念撮影 (場所:アトレ恵比寿4階 ラフォンテ ヌ広場)	当館スタッフ	平成29年7月8日(土)	128	無料
フォトドキュメンタリーワークショップ 2017	Q. サカマキ(写真家)、外山俊樹(朝日新聞社映像報道部)	平成29年7月15日(土)~ 7月17日(月・祝)	15	20,000円
フォトドキュメンタリーワークショップ 一般公開レヴュー	Q. サカマキ(写真家)、外山俊樹(朝日新聞社映像報道部)	平成29年7月17日(月・祝)	21	無料
夏休みワークショップ 手作りの家族写真 暗室でのモノクロ 現像に挑戦!(A/Bコース)	当館スタッフ	平成29年7月29日(土)	17	小学生1,000円
夏休みワークショップ 手作りの家族写真 暗室でのモノクロ 現像に挑戦!(C/Dコース)	当館スタッフ	平成29年7月30日(日)	11	小学生1,000円
じっくり見たり、つったりしよう!夏期 (Aコース)	当館スタッフ	平成29年8月19日(土)	8	一組800円 小学生とその保護者
じっくり見たり、つったりしよう!夏期 (Bコース)	当館スタッフ	平成29年8月20日(日)	12	一組800円 小学生とその保護者
視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ 夏期	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	平成29年9月3日(日)	11	500円
8ミリ自家現像ワークショップ	石川亮(東京国立近代美術館フィルムセンター技術員、映像作家) 郷田真理子(フィルム技術者、株式会社IMAGICAウエスト)	平成29年9月23日(土・祝)、 9月24日(日)	9	5,000円
8ミリ自家現像ワークショップ 発表上映会	石川亮(東京国立近代美術館フィルムセンター技術員、映像作家) 郷田真理子(フィルム技術者、株式会社IMAGICAウエスト)	平成29年9月24日(日)	34	無料
じっくり見たり、つったりしよう!秋期 (Aコース)	当館スタッフ	平成29年10月22日(日)	6	一組800円 小学生とその保護者
視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ 秋期	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	平成29年11月3日(金・祝)	13	500円
モノクロ銀塩プリントワークショップ (A/Bコース)	当館スタッフ	平成29年11月18日(土)	9	銀塩ネガフィルムご使用の場合:一般4,000円 学生3,000円 中高生2,000円 デジタル画像ご使用の場合:一般5,000円 学生4,000円 中高生3,000円(デジタルネガフィルム代含む)
じっくり見たり、つったりしよう!秋期 (Bコース)	当館スタッフ	平成29年11月19日(日)	9	一組800円 小学生とその保護者
モノクロ銀塩プリントワークショップ (C/Dコース)	当館スタッフ	平成29年11月26日(日)	17	銀塩ネガフィルムご使用の場合:一般4,000円 学生3,000円 中高生2,000円 デジタル画像ご使用の場合:一般5,000円 学生4,000円 中高生3,000円(デジタルネガフィルム代含む)
手作りアニメーション体験 午前コース	当館スタッフ	平成30年1月14日(日)	11	300円
手作りアニメーション体験 午後コース	当館スタッフ	平成30年1月14日(日)	32	無料
高校生限定 暗室でモノクロ写真 プリントワークショップ	当館スタッフ	平成30年3月18日(日)	3	1,500円
合計 31回 487名				

講演会等

展覧会と連動して、展覧会出品作家、展覧会関係者による講演会等のプログラムを実施した。

【自主企画展・収蔵展】

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
総合開館20周年記念 夜明けまえ 知られざる 日本写真開拓史 総 集編	写真開拓史講座 初期写真を巡る講演会「“写真” と“文献”資料から読み解く写真史」	平成29年4月1日(土)	谷昭佳(東京大学史料編纂所史料保存技術室[写真]技術専門職員)	43
	写真開拓史講座 初期写真を巡る講演会「初期写 真を見ることについて」	平成29年4月8日(土)	三井圭司(当館担当学芸員)	44
	写真開拓史講座 初期写真を巡る講演会「初期写 真をめぐる定着されたものたちの話」	平成29年4月15日(土)	鳥海早喜(日本大学芸術学部専任講師)	38
総合開館20周年記念 山崎博 計画と偶然	対談「山崎博をめぐって」	平成29年4月16日(日)	金子隆一(写真史家)×石田哲朗(当館担当学芸員)	32

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数	
総合開館20周年記念 ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館	講演会 ダヤニータ・シン	平成29年5月20日(土)	ダヤニータ・シン(出品作家)	111	
	U-zhaan(コザーン)×新井孝弘 インド古典音楽ライブ	平成29年5月27日(土)	U-zhaan(タブラ奏者)、新井孝弘(サントゥール奏者)	228	
	講演会 畠山直哉	平成29年7月7日(金)	畠山直哉(写真家)	159	
総合開館20周年記念 荒木経性 センチメンタルな旅 1971-2017-	関連トーク「22世紀アラキー論 一ずっと、センチメンタル」	平成29年8月6日(日)	伊藤俊治(美術史家・東京藝術大学教授)、北澤ひろみ(本展ゲスト・キュレーター)、司会:藤村里美(当館担当学芸員)	130	
	朗読会+トーク	平成29年9月16日(土)	吉増剛造(詩人)、朝吹真理子(作家)	124	
エクспанデッド・シネマ再考	アーティストトーク	平成29年8月19日(土)	飯村隆彦(出品作家)	46	
		平成29年8月20日(日)	おおえまさのり(出品作家)	35	
		平成29年8月26日(土)	シュウゾウ・アヅチ・ガリバー(出品作家)	38	
	第10回恵比寿映像祭・国際シンポジウム: インヴィジブル、インターメディア、エクспанデッド —映像の可能性	平成29年10月9日(月・祝)	ブランデン W. ジョセフ(コロンビア大学教授、美術研究者)、平沢剛(明治学院大学研究員、映画研究者)、ジュリアン・ロス(ロッテルダム国際映画祭プログラマー、映画研究者)	101	
長島有里枝 そしてひとつまみの皮肉と、愛を少々。	作家とゲストによるトーク	平成29年10月8日(日)	野中モモ(ライター、翻訳家)×長島有里枝	62	
		平成29年11月5日(日)	志賀理江子(写真家)×藤岡亜弥(写真家)×長島有里枝	87	
無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol. 14	アーティスト対談	平成29年12月3日(日)	武田慎平×小澤慶介(アート、インディペンデント・キュレーター)	24	
		平成29年12月9日(土)	吉野英理香×金子隆一(写真史家)	47	
		平成29年12月16日(土)	鈴木のぞみ×小原真史(キュレーター、映像作家)	34	
		平成30年1月11日(木)	片山真理×小谷元彦(美術家、彫刻家)	55	
		平成30年1月13日(土)	金山貴宏×姫野希美(赤々舎代表取締役、ディレクター)	43	
TOP Collection アジェのインスピレーション ひきまつかれる精神	関連トーク「ウジェーヌ・アジェの写真を紐解く」	平成29年12月8日(金)	横江文憲(写真評論家)	31	
	関連トーク「ウジェーヌ・アジェの写真集をめぐる」	平成30年1月5日(金)	金子隆一(写真史家)	50	
第10回恵比寿映像祭 インヴィジブル	ラウンジトーク	平成30年2月9日(金)	マルティヌ・シムズ(展示出品作家)、ナターシャ・ニジック&基丸謙(展示出品作家)	91	
		平成30年2月11日(日)	SHIMURAabros(展示出品作家)、ステティラット・スバパリンヤ(展示出品作家)	126	
		平成30年2月12日(月・祝)	ラファエル・ローゼンダール(展示出品作家)	100	
		平成30年2月17日(土)	井村君江(明星大学名誉教授)、浜野志保(千葉工業大学准教授)	117	
		平成30年2月18日(日)	永田康祐(展示出品作家)、高嶋晋一+中川周(展示出品作家)	202	
		平成30年2月21日(水)	[地域連携プログラム MA2 Gallery] 松原健(美術家)、飯沢耕太郎(写真評論家)	70	
		平成30年2月24日(土)	青柳菜摘(展示出品作家)	114	
		平成30年2月25日(日)	invisible designs lab.(オフサイト展示出品作家)、木ノ下智恵子(キュレーター)	98	
		上映関連ゲストトーク 1. 透かしみる 1 ——ピクセルの裏側	平成30年2月9日(金)	ジュリアン・ロス(プログラマー)	25
		上映関連ゲストトーク 2. 透かしみる 2 ——舞台裏	平成30年2月20日(火)	荒木悠(アーティスト)	71
	上映関連ゲストトーク 5. 不可視であるなら、私が、 出光真子おんなのさくひん	平成30年2月12日(月・振)、 18日(日)、23日(金)	出光真子(アーティスト)、服部かつゆき(プログラマー)、森下明彦(ゲスト)	190	
	上映関連ゲストトーク 7. ミャンマー・インディ映画の 新しい波 ——ワッタン映画祭セレクション	平成30年2月9日(金)、11 日(日)	清恵子(プログラマー)	83	
	上映関連ゲストトーク 8. 頭の中の声 ——見えないものとのランデヴー ランデヴー・ウィズ・マッドネス映画祭セレクション	平成30年2月11日(日)、21 日(水)	スティーヴ・サンゲドルチェ(アーティスト)、スコット・ミラー・ベリー(プログラマー)	82	
	上映関連ゲストトーク 9. DigiCon6 ASIA ——ショートムービーから見えてくるアジア	平成30年2月15日(木)	竹内海南江(ゲスト)、山田亜樹(プログラマー)	29	
	上映関連ゲストトーク 10. 岡部道男特集 ——アンダーグラウンドとキャンプ [16ミリフィルム上映]	平成30年2月17日(土)	ジョナサン M. ホール(ゲスト)	74	
	上映関連ゲストトーク 11. 岡部道男特集 上映+スペシャル トーク [16ミリフィルム上映]	平成30年2月17日(土)	岡部道男(アーティスト)、鈴木章浩(ゲスト)	78	
	上映関連ゲストトーク 12. 《略称・連続射殺魔》 [35 ミリフィルム上映]	平成30年2月17日(土)	足立正生(アーティスト)	85	
	上映関連ゲストトーク 13. 《ナイトクルージング》 Yebizo特別版(ライブ音声解説付) 上映&スペシャルトーク	平成30年2月25日(日)	佐々木誠(アーティスト)、加藤秀幸(ゲスト) 田中みゆき(ゲスト)	103	
	シンポジウム A. 国際シンポジウム 不可視性について	平成30年2月10日(土)	パネリスト:ジェイ・チュン&キュー・タケキ・マエダ(出品作家、アーティスト)、清恵子(ゲストプログラマー、キュレーター) 白石嘉治(フランス文学者)、モデレーター:田坂博子(恵比寿映像祭ディレクター、当館学芸員)	113	
	シンポジウム B. [コラボラティブ・カタロギング・ジャ パン(CCJ) 共催企画] 国際連携シンポジウム タイムベースド・メディアの収 集保存 —— ニューヨーク近代美術館、アンソロジー・フィルム・ アーカイヴス、東京都写真美術館の事例から	平成30年2月10日(土)	パネリスト:ジョン・クラックスマン(アンソロジー・フィルム・アーカイヴス・アーキヴィスト)、ピーター・オレクシク(ニューヨーク近代美術館アソシエイト・メディアコンサバター)、田中信至(映像音響技術者)、司会:足立アン(コラボラティブ・カタロギング・ジャパン・ディレクター)、モデレーター:田坂博子(恵比寿映像祭ディレクター、当館学芸員)	77	
シンポジウム C. [日仏会館共催企画] 映像のヴィ ジブル/インヴィジブル ——8K映像の可能性	平成30年2月15日(木)	パネリスト:落合淳(NHK制作局8K制作事務局チーフ・プロデューサー)、三浦篤(東京大学総合文化研究科教授、日仏会館学術委員)、矢野数馬(関西テレビ制作技術局制作技術センター専任部長)、原田大(映像作家、多摩美術大学情報デザイン学科教授)、司会:遠藤みゆき(恵比寿映像祭アシスタント・キュレーター、当館学芸員)	32		
ライブ・イベント I. mamoru ライブ・パフォーマ ンス:あり得た(る) かもしれないその歴史を聞き取 ろうとし続けるある種の長い旅路、特に日本人やオ ランダ人その他もろもろに関して	平成30年2月23日(金)	mamoru(アーティスト)、河合真人(声明/浄土宗瑞林院住職)、So Oishi(DJ)/チュン・チャーイ(スオナ、単皮鼓等)	108		
ライブ・イベント II. エクспанデッド・シネマ パフォーマンス: Beyond the Frame	平成30年2月24日(土)	ポール・シャリッツ/宮井陸郎(映像作家)、大城真(音楽家・美術家)、平沢剛	181		

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	
第10回恵比寿映像祭 インヴィジブル	[YEBIZO MEETS] I 特別セッション：東京から発信する映画・映像祭の「今」	平成30年2月14日(水)	市山尚三、荒木啓子、東野正剛	22
	[YEBIZO MEETS] II 地域発信トーク：NPO法人アーツインシアティヴトウキョウ	平成30年2月15日(木)	ロジャー・マクドナルド	27
	[YEBIZO MEETS] III リンクセッション：東京から発信するグラスルーツアートプロジェクトを検証 ― オルタナティヴ・スペースstatements/アサクサの事例から	平成30年2月21日(水)	兼平彦太郎、大坂紘一郎	29
	[YEBIZO MEETS] IV 地域連携発信 特別イベント 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップin恵比寿映像祭	平成30年2月18日(日)、24日(土)		16
『光画』と新興写真 モダニズムの日本	トーク「新興写真とはなんだったのか」	平成30年3月17日(土)	谷口英理(国立新美術館 学芸課美術資料室長)、松實輝彦(名古屋芸術大学准教授)、光田由里(美術評論家)、司会：藤村里美(当館担当学芸員)	63
参加人数合計 3,968人				

【誘致展】

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
フォトジャーナリスト=長倉 洋海の眼地を這い、未来へ 駆ける	「活動写真 アフガニスタン山の学校の子どもたち」	平成29年4月2日(日)	長倉洋海(出品作家)	60
	特別対談「たった一人の戦場」を語る	平成29年4月2日(日)	西原理恵子×長倉洋海(出品作家)	167
	講演会「審査員もやまばなし」	平成29年5月20日(土)	熊切圭介、野町和嘉、三好和義、吉野信、菅原隆治(『CAPA』編集長)	190
	イベント「ワクワドキドキ写真教室」	平成29年5月21日(日)	JPS会員、写真家	40
第42回 2017 JPS展	イベント「単焦点レンズを楽しもう!!」	平成29年5月27日(土)	JPS会員、写真家	31
	グランプリ選出公開審査会	平成29年11月10日(金)	アレック・ソス(写真家)、サンドラ・フィリップス(サンフランシスコ MOMAキュレーター)、ダヤニータ・シン(アーティスト)、澤田知子(アーティスト)、さわひらき(美術家)、清水稜(写真評論家)、上田義彦(写真家)	160
写真新世紀展 2017	ポートフォリオ・レビュー	平成29年11月11日(土)	写真新世紀2017審査員：サンドラ・フィリップス、ダヤニータ・シン、さわひらき、澤田知子、清水稜、石田哲朗(当館学芸員)	55
	映像レクチャー	平成29年11月12日(日)	さわひらき(美術家)	50
	写真レクチャー	平成29年11月16日(木)	上田義彦(写真家)	60
生誕100年 ユージン・スミス写真展	ユージン・スミスを語る	平成29年12月3日(日)	講師：ケヴィン・スミス(ユージン・スミス次男)、アイリーン・美緒子スミス(写真集『水俣』共著者)、レベッカ・セーフ(アリゾナ大学CCPチーフ・キュレーター)、聞き手：徳山喜雄(ジャーナリスト)	186
	ユージン・スミスの生きた時代	平成30年1月14日(日)	講師：野町和嘉(写真家)、大石芳野(写真家)、聞き手：徳山喜雄(ジャーナリスト)	293
参加人数合計 1,292人				

ギャラリートーク

【収蔵展・自主企画展】

展覧会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

展覧会	開催日	講師等	参加人数
総合開館20周年記念 夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 総集編	平成29年4月7日(金)・13日(木)・14日(金)・21日(金)・5月3日(水・祝)・4日(木・祝)・5日(金・祝)・6日(土)・7日(日)	三井圭司(担当学芸員)、アリス・ゴードンカー(英語解説)	677
総合開館20周年記念 山崎博 計画と偶然	平成29年4月14日(金)・28日(金)	石田哲朗(担当学芸員)	62
総合開館20周年記念 TOPコレクション 「いま、ここにいる」平成をスクロールする 春期	平成29年5月19日(金)・6月2日(金)・16日(金)・7月7日(金)	伊藤貴弘(担当学芸員)	175
総合開館20周年記念 ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館	平成29年5月26日(金)・6月9日(金)・23日(金)・7月14日(金)	笠原美智子(担当学芸員)	151
総合開館20周年記念 TOPコレクション 「コミュニケーションと孤独」平成をスクロールする 夏期	平成29年7月21日(金)・8月4日(金)・18日(金)・9月1日(金)・15日(金)	武内厚子(担当学芸員)	179
総合開館20周年記念 荒木経惟 センチメンタルな旅 1971-2017-	平成29年7月28日(金)・8月11日(金・祝)・25日(金)・9月8日(金)・22日(金)	北澤ひろみ(ゲストキュレーター)、藤村里美(担当学芸員)	415
エクスパンデッド・シネマ再考	平成29年8月25日(金)・9月8日(金)・22日(金)・10月13日(金)	田坂博子(担当学芸員)	126
総合開館20周年記念 TOPコレクション 「シンクロニシティ」平成をスクロールする 秋期	平成29年10月6日(金)・20日(金)・11月3日(金・祝)・17日(金)	石田哲朗(担当学芸員)	138
長島有里枝 そしてひとつまみの皮肉と、愛を少々。	平成29年10月13日(金)・27日(金)・11月10日(金)・24日(金)	伊藤貴弘(担当学芸員)	122
無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol. 14	平成29年12月8日(金)・22日(金)・平成30年1月12日(金)・26日(金)	丹羽晴美(担当学芸員)	146
TOP Collection アジェのインスピレーション ひきつがれる精神	平成29年12月12日(火)・15日(金)・平成30年1月5日(金)・19日(金)	鈴木佳子(担当学芸員)	205
第10回恵比寿映像祭 インヴィジブル ①フェスティバルの全体像を掴もうツアー	平成30年2月12日(月・祝)、18日(日)		28
第10回恵比寿映像祭 インヴィジブル ②Full Festival Tour	平成30年2月12日(月・祝)		5
第10回恵比寿映像祭 インヴィジブル ③TOPメイン会場ツアー	平成30年2月21日(水)		15
第10回恵比寿映像祭 インヴィジブル ④TOP Museum Tour	平成30年2月22日(木)		9
写真発祥地の原風景 長崎	平成30年3月9日(金)・16日(金)・23日(金)	三井圭司(担当学芸員)、アリス・ゴードンカー(英語解説)	82
『光画』と新興写真 モダニズムの日本	平成30年3月16日(金)	藤村里美(担当学芸員)	39
参加人数合計 2,574人			

ギャラリートーク

【誘致展】

展覧会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

展覧会	開催日	講師等	参加人数
フォトジャーナリスト 長倉洋海の眼 地を這い、未来へ駆ける	平成29年4月1日(土)・8日(土)・9日(日)・15日(土)・16日(日)・22日(土)・23日(日)・29日(土)・祝)・30日(日)・5月3日(水)・祝)・4日(木)・祝)・5日(金)・祝)・6日(土)・7日(日)・13日(土)・14日(日)	長倉洋海(出品作家)	1,605
第42回 2017 JPS展	平成29年5月30日(火)・31日(水)・6月1日(木)・2日(金)・3日(土)・4日(日)	写真家(日本写真家協会会員)	257
世界報道写真展2017	平成29年7月3日(月)・7月21日(金)		72
写真新世紀展 2017	平成29年10月21日(土)	2017年度優秀賞受賞者、佳作受賞者 2016年度グランプリ受賞 金 サジ氏	128
APAアワード2018 併設 第九回「全国学校図工・美術写真公募展」講評会	平成30年3月17日(土)	第九回「全国学校図工・美術写真公募展」審査員 APA会員	67
清里フォトアートミュージアム収蔵作品展 原点を、永遠に。-2018-	平成30年3月24日(土)・25日(日)	中藤毅彦(写真家) × 松サナカ(ミステリー作家) 瀬戸正人(写真家)	75
参加人数合計 2,204人			

東京都写真美術館ボランティア

1年間を通して、パブリックプログラム、スクールプログラム、恵比寿映像祭などで活動した。

今年度は暗室系実技プログラムが本格的に復活し、暗室での現像や対話型鑑賞のファシリテーション、障害のある方のためのプログラムでのサポートなど活動で求められる内容が多方面にわたった。それに対応することが出来るように、技術面と、コミュニケーション面の両面からの研修を数多く開催し、スキルアップをおこなった。

さらに、スクールプログラムでは鑑賞と制作が同時に進行するため、ボランティアがおのおの鑑賞側のサポートをする者と制作側のサポートをする者の二手に分かれて活動することも多く、いかに上手く連携してゆくかという事が重要となった。

1 登録者数

平成28年度からの更新登録者：52名

新規登録者：16名

2 ボランティア活動実績

活用事業実施回数 47回

1ヶ月平均 3.9回

活動人数のべ 307人

(ただしボランティア研修会をのぞく)

年間一人あたり 6.4回

- (1) パブリックプログラム活動 22回
- (2) スクールプログラム活動 19回
- (3) 「恵比寿映像祭」会場スタッフ活動 6回

3 研修会・連絡会

(1) ボランティア研修会 12回 のべ参加者数 119人

平成29年4月9日(日) 鶏卵紙プリント研修会

講師：当館スタッフ

平成29年6月3日(土) 新規ボランティア研修会

講師：当館スタッフ

平成29年8月6日(日) 対話型作品鑑賞研修会 その1

講師：当館スタッフ

平成29年8月6日(日) 対話型作品鑑賞研修会 その2

講師：当館スタッフ

平成29年10月1日(日) すべての人に開かれた美術館プログラムについて

講師：視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ(林健太氏、鄭晶晶氏、木下路徳氏)

平成30年1月21日(日) 対話型作品鑑賞研修会その3-1

講師：当館スタッフ

平成30年1月27日(土) 対話型作品鑑賞研修会その3-1

講師：当館スタッフ

平成30年2月17日(土) 対話型作品鑑賞研修会その3-2

講師：当館スタッフ

平成30年2月25日(日) 対話型作品鑑賞研修会その3-2

講師：当館スタッフ

平成30年3月4日(日) 対話型作品鑑賞研修会その3-3

講師：当館スタッフ

平成30年3月11日(日) コミュニケーション研修会

講師：伊達隆洋(京都造形芸術大学准教授)

平成30年3月21日(水・祝) 対話型作品鑑賞研修会その3-4

講師：当館スタッフ

(2) ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放) 8回 のべ参加者数 58人

平成29年6月30日(金)、7月23日(日)、8月25日(金)、9月30日(土)、10月27日(金)、11月23日(木・祝)、12月22日(金)、平成30年1月27日(土)

(3) ボランティア連絡会 3回 のべ参加者数 101人

平成29年6月3日(土)、10月1日(日)、平成30年3月4日(日)

東京都写真美術館 博物館実習

写真美術館における美術館活動と学芸員および各部署の業務を実地で研修することによって、学芸員養成のための実習とした。平成29年度は教育普及プログラム、展覧会企画、作品保存などの講義、作品解説の演習を行い、まとめとして課題発表を行った。

(1) 受入日程：平成29年8月17日(木)～9月7日(木)のうちの12日間

(2) 受入人数：12名

(3) 受入大学：東海大学、武蔵野美術大学、大正大学、女子美術大学、明治学院大学、学習院大学、広島女学院大学、広島市立大学、立教大学、日本大学

収集の基本方針

1989（平成元）年2月3日（昭和63年度）策定

写真作品（オリジナル・プリント）を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

[写真作品]

- 1.国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2.写真の発生から現代まで、写真史のうえで重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3.歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4.東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5.日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
- 6.基本方針「写真作品」5.に基づき作品を収集した第一期重点作家（17名、五十音順）秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

[写真資料]

- 1.出版物（写真集、専門書、雑誌）については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2.ネガフィルムの類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3.ポスターなど、写真展の付属資料（図録、チケット等）を収集する。
- 4.その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

[写真機材類]

- 1.写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2.体験学習などの事業活動に必要となるものを収集する。

[映像資料]

- 1.映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2.体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3.日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。
- 4.各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

[作品収集の目標]

- 1.長期収集計画 7万5千点以上

内訳：写真作品（国内・海外50,000点以上、写真作品以外の資料25,000点以上）

写真作品収集の新指針 2006（平成18）年11月13日策定

- 1.写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2.黎明期の写真のように、希少的価値のある作品を積極的に収集する。
- 3.写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4.1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5.日本の新進作家展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6.写真美術館の展覧会（自主展、収蔵展）で取り上げた作家作品を収集する。
- 7.基本方針「写真作品」5.に基づく新規重点作家の設定
 - (1) 日本を代表する作家であること
 - (2) 国内外で評価が高いこと
 - (3) 日本の写真の一分野を代表する作家であること
 - (4) 国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
 - (5) 現在おおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
 - (6) 収集にあたっては、現在の収集予算および市場価格の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
 - (7) 重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8.写真作品収集の新指針7に基づく第二期重点作家（21人、五十音順）荒木経惟、石内都、オノデラユキ、北井一夫、北島敬三、小山穂太郎、佐藤時啓、篠山紀信、柴田敏雄、杉本博司、鈴木清、須田一政、高梨豊、田村彰英、畠山直哉、深瀬昌久、古屋誠一、宮本隆司、森村泰昌、やなぎみわ、山崎博

作品収集実績

平成29年度収集点数：665点

【内訳】国内写真作品：537点 海外写真作品：61点 映像作品資料：67点

東京都写真美術館コレクション点数：34,673点

【内訳】国内写真作品：22,810点 海外写真作品：5,695点 映像作品資料：2,443点 写真資料：3,725点

【東京都購入作品】

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
荒木 経惟	《冬の旅》より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	356x432	10	1989-1990	重点収集作家 平成29年度展覧会出品作品
片山 真理	《小さなハイヒールを履く私》ほか	発色現像方式印画	1030x1456	2	2011	平成29年度展覧会出品作品
金山 貴宏	While Leaves Are Falling...	インクジェット・プリント	407x508	8	1999-2017	平成29年度展覧会出品作品
志賀 理江子	《螺旋海岸》より	発色現像方式印画	1200x1800	10	2009-2012	平成30年度展覧会関連作品
嶋田 忠	《鳥のいる風景》より	インクジェット・プリント	330x470	30	1986-2017	平成31年度展覧会出品予定作品
杉浦 邦恵	《電気服にちなんでAp2、黄色》ほか	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	1753x1130	5	1966-2002	平成29年度展覧会出品予定作品
鈴木 のぞみ	Other Days, Other Eyes	その他の技法		2	2017	平成29年度展覧会出品作品
武田 慎平	Trace	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	487x608	4	2012	平成29年度展覧会出品作品
中平 卓馬	《日常》より	発色現像方式印画	432x356	50	1990-1996頃	
長島 有里枝	《empty white room》より	発色現像方式印画	327x490	8	1993-1994	平成29年度展覧会出品作品
浜口 タカシ	《大学闘争 70年安保へ》《ドキュメント10年の記録 三里塚》より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	260x400	25	1967-1977	
平敷 兼七	《山羊の肺》より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	203x254	20	1968-1975頃	平成32年度展覧会出品予定作品
吉野 英理香	Untitled	発色現像方式印画	200x300	15	2010-2016	平成29年度展覧会出品作品
金 玉善	《Happy Together》より	発色現像方式印画	800x1000	4	2002-2004	平成30年度展覧会出品予定作品
金 仁淑	《リアルウェディング》《サイエン：はざまから》より	発色現像方式印画	1180x1600	4	2008-2010	平成30年度展覧会出品予定作品
出光 真子	Still Life	その他のフィルム		1	1993-2000	平成29年度以降展覧会出品予定作品
岡部 道男	クレイジーラブ	その他のフィルム	1968年/16ミリフィルム/93分/白黒、カラー/サウンド	1	1968	平成29年度恵比寿映像祭出品作品
峯 利子	《西天下茶屋・おおいし荘》《Blessed—祝福—》《Wave 踊る人》ほか	その他のフィルム		5	1999-2017	平成28年度恵比寿映像祭出品作品
金 仁淑	《リアルウェディング》《サイエン：はざまから 2008》	その他のフィルム		2	2008	平成30年度展覧会出品予定作品
合計				206		

【東京都写真美術館購入作品】

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
内田 九一	《名古屋城の金鯱》	鶏卵紙	265x207	1	1872頃	
田中 美代治	《噴火後の磐梯山》	鶏卵紙	207x265	1	1888	
Anthonyus Franciscus Bauduin	手彩色名刺判写真	鶏卵紙	85x57	3	1872頃	平成29年度展覧会出品作品
BEATO, Felice	Portraits and landscapes	鶏卵紙	55x90	37	1863-1866頃	平成31年度展覧会出品予定作品
Numa Blanc	Portrait of Kurimoto Joan and his sons taken in Paris during the Universal Exposition	鶏卵紙	314x236	1	1867	
横溝 静	PRAYER	その他のフィルム	シングルスクリーン・プロジェクトン 17分 (ループ)	1	2007	平成29年度恵比寿映像祭出品作品
合計				44		

*東京都写真美術館購入作品については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

【寄贈】

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年f	備考
荒木 経惟	〈冬の旅〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	356x432	22	1989-1990	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度展覧会出品作品
片山 真理	you're mine	発色現像方式印画	930x1500x50	3	2014-2016	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度展覧会関連作品
金山 貴宏	〈While Leaves Are falling...〉より	インクジェット・プリント	407x508	32	1999-2017	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度展覧会出品作品
川上 重治	〈教育農場と少年たち〉 〈問題を負わされた子どもたち〉より他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	283x192	132	1959-1969	ご遺族より、1960年代ドキュメンタリー写真
嶋田 忠	シリーズ〈鳥のいる風景〉	インクジェット・プリント	330x470	10	1986-2017	購入時寄贈、作家ご本人より、平成31年度展覧会出品予定作品
鈴木 のぞみ	Other Days, Other Eyes	その他のフィルム	1375x1800	3	2017	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度展覧会出品作品
武田 慎平	Glaze	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	553x432	2	2017	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度展覧会出品作品
中平 卓馬	〈日常〉より	発色現像方式印画	432x356	2	1990-1996頃	購入時寄贈、ご遺族より
長島 有里枝	〈empty white room〉より	発色現像方式印画	327x490	6	1993-1994	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度展覧会出品作品
浜口 タカシ	シリーズ〈大学闘争 70年安保へ〉	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	260x400	5	1968-1977	購入時寄贈
平敷 兼七	〈山羊の肺〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	203x254	20	1968-1975頃	購入時寄贈、ご遺族より、平成32年度展覧会出品予定作品
山崎 博	(TEN POINTS HELIOGRAPHY) (HELIOGRAPHY DAY & YEAR) (水平線採集) 他	発色現像方式印画	762x1124	91	1982-2017	ご遺族より、平成28年度展覧会出品作品および未陳作品
山本 誠陽	(女性と三人の子供)	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	140x90	1	1880-1900頃	一般のお客様からのお申し出 丸木利陽の弟。利陽に写真術を学び、アメリカに渡り写真術を学ぶ。帰朝後、神田錦町に写真館を経営した
吉野 英理香	(MARBLE) ほか	発色現像方式印画	200x300	15	2013-2016	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度展覧会出品作品
制作者不詳	〈猿渡常安・総女〉ほか	アンプロタイプ	68x46	2	1880	一般のお客様からのお申し出
フェリーチェ・ベアト	Takahoko-jima island view from Tateyama, Nagasaki	鶏卵紙	220x285	1	1864頃	平成29年度展覧会出品作品、初期写真研究者Sebastian Dobson氏より
RATNER, Ken	Guggenheim Museum #2 ほか	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	305x203	4	2015	作家ご本人より
金玉善	(Happy Together) より	発色現像方式印画	408x510	2	2002-2004	購入時寄贈、作家ご本人より、平成30年度展覧会出品予定作品
金 仁淑	〈サイエン：はざまから〉より	発色現像方式印画	1020x1300	5	2008-2010	購入時寄贈、作家ご本人より、平成30年度展覧会出品予定作品
出光 真子	《加恵、女の子でしょ!》ほか	その他のフィルム		38	1996	購入時寄贈、作家ご本人より平成29年度映像祭出品予定作品。映像38作品のHDデジタルリマスター (16ミリフィルムを寄贈含む)
おおえ まさのり	ループ式 No.1 / No.2 / No.3	その他のフィルム	《ループ式 No.1 / No.2 / No.3》 (1966年/16ミリフィルム/1: 4.2秒 2: 2.8秒 3: 4.7秒/白黒/サウンド (モノ))	1	1966	ご遺族より、平成29年度展覧会出品作品
岡部 道男	《天地創造説》《貴夜夢富 (キャンプ)》	その他のフィルム	《天地創造説》 (1967年/16ミリフィルム/26分/白黒/サウンド) 《貴夜夢富 (キャンプ)》 (1970年/16ミリフィルム/44分/カラー/サウンド)	2	1967-1970	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度恵比寿映像祭出品作品
釜 利子	《伊丹 2006年 春》ほか10点	その他のフィルム		10	2006-2010	購入時寄贈、作家ご本人より
真鍋 博	マリーン・スノウ	その他のフィルム	《マリーン・スノウ》 1960年/HDデジタル (Prores422HQ) /23分/白黒/サウンド	1	1960	ご遺族より、平成29年度展覧会出品作品
山崎 博	《観測概念 OBSERVATION》 (VISION TAKE 1) 《MOTION》《櫻》	その他のフィルム	《観測概念 OBSERVATION》 1975年/HDデジタル/ (オリジナルは16ミリフィルム) 9分32秒/白黒/モノラル (VISION TAKE 1) 1973年/HDデジタル (オリジナルは16ミリフィルム) 13分40秒/カラー 《櫻》 1989年/HDデジタル/19分5秒/カラー/サウンド	4	1973-1989	ご遺族より、平成28年度展覧会出品作品
横溝 静	Flow	その他のフィルム	シングルチャンネル・ウォール・プロジェクション (10分ループ)、15インチモニター・ビデオ (5分ループ)	1	2007	購入時寄贈
合計				415		

【寄託】

作家名	作品名	技法	サイズ	点数	制作年	備考
米谷 紅浪	《里》、《落日》他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	274x223	78	1914-1933年頃	ご遺族より、関西におけるピクトリアリズム写真の中心的人物
松浦 一郎	「キシシマは拓く」第一、朝	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	260x200	1		ご遺族より、米谷作品と同一梱包内にあり
米谷 紅浪	アルバム、関係資料	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)		73		ご遺族より、アルバム 2冊、浪華写真倶楽部撮影会記念写真など

平成29年度新収蔵作品の紹介

東京都購入案件



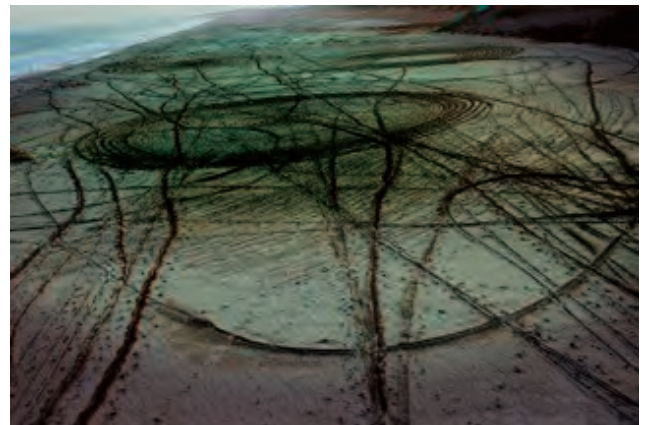
荒木経惟 《冬の旅》 1990年 ゼラチン・シルバー・プリント



片山真理 《小さなハイヒールを履く私》 2011年 発色現像方式印画



金山真宏 《While Leaves are Falling...》 2008年 インクジェット・プリント



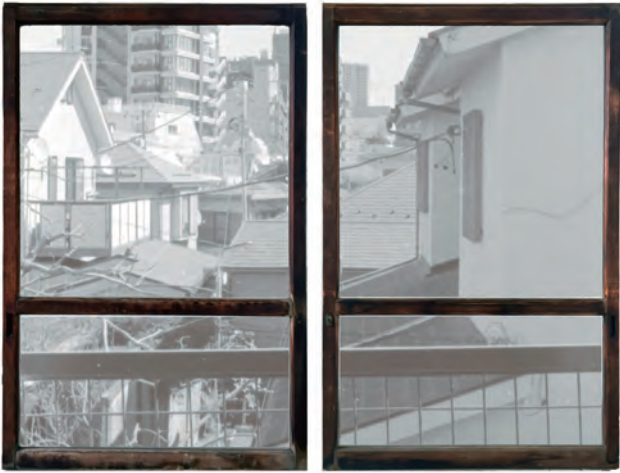
志賀理江子 《螺旋海岸》《螺旋海岸46》 2011年 発色現像方式印画



嶋田忠 《鳥のいる風景》《キレンジャク》 1986年 インクジェット・プリント



杉浦邦恵 《電気服にちなんでAp2、黄色》 2002年
ゼラチン・シルバー・プリントに黄色の調色



鈴木のぞみ 〈Other Days, Other Eyes〉《柿の木荘2階東の窓》 2017年
その他技法



武田慎平 《痕 #7 二本松城》 2012年 ゼラチン・シルバー・プリント



中平卓馬 〈日常〉 1990-1996年 発色現像方式印画



長島有里枝 〈empty white room〉《Untitled》 1994年 発色現像方式印画



浜口タカシ 〈ドキュメント 10年の記録三里塚〉《代執行の日。身体に鎖を巻きつけて抵抗する婦人》 1971年 ゼラチン・シルバー・プリント



平敷兼七 〈山羊の肺〉《復帰の翌日 大雨後（伊平屋 1972 5・16）》 1972年
ゼラチン・シルバー・プリント

平成29年度新収蔵作品の紹介
東京都購入案件



吉野英理香 〈NEROLI〉 2016年 発色現像方式印画



キム・オクサン 〈ハッピー・トゥギャザー〉《オクサンとラルフ》 2002年
発色現像方式印画



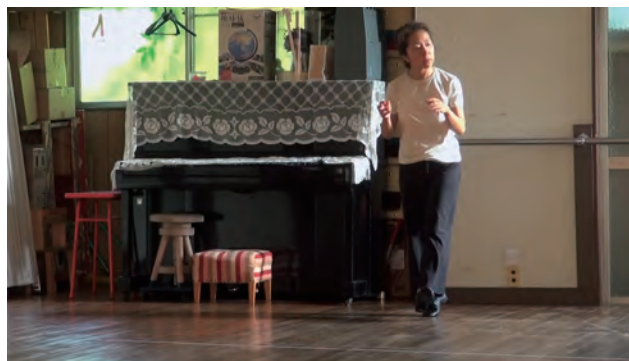
キム・インスク 〈サイエンス：はざまから〉《息子と私》 2008年 発色現像方式印画



出光真子 《Still Life》 1993-2000年 インスタレーション 撮影：安齋重男



岡部道男 《クレイジーラブ》 1968年
16ミリフィルム/93分/白黒、カラー/サウンド



釜利子 《Wave 踊る人》 2017年 シングルチャンネル・ビデオ

平成29年度新収蔵作品の紹介
 東京都写真美術館購入案件



内田九一 《(名古屋城の金鯨)》 1872年頃 鶏卵紙



田中美代治 《(磐梯山の噴火)》 1888年 鶏卵紙



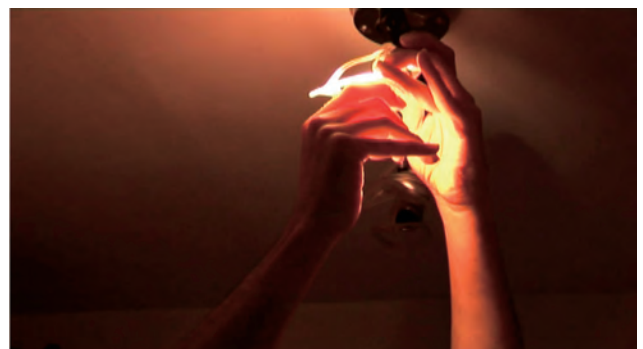
アントニウス・フランシス・ボードウィン 《(オランダ公使館(長応寺))》 1866年頃
 鶏卵紙に手彩色



フェリーチェ・ベアト 《江戸城》 1863年頃 鶏卵紙



ヌマ・プラン 《(慶応三年遣仏使節 栗本鋤雲とその養子たち)》 1867年 鶏卵紙



横溝静 《PRAYER》 2007年 シングルチャンネル・ビデオ・プロジェクション

【東京都写真美術館展覧会図録論文】

石田哲朗

「共時性あるいは空気について」『TOPコレクション 平成をスクロールする』展図録、東京都写真美術館、2017年、p.104

伊藤貴弘

「いま、ここにいる」『TOPコレクション 平成をスクロールする』展図録、東京都写真美術館、2017年、p.8

「何よりも自分自身でいること—長島有里枝と写真」『長島有里枝そしてひとつまみの皮肉と、愛を少々。』展図録、東京都写真美術館、2017年、pp.194-202

笠原美智子

「ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館」『ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館』展図録、東京都写真美術館、2017年、pp.8-19

「囚われの荒木」『荒木経惟 センチメンタルな旅 1971-2017-』展図録、HeHe、2017年、pp.236-240

鈴木佳子

「ウジェーヌ・アジェのインスピレーション—ひきつがれる精神」『ウジェーヌ・アジェのインスピレーション—ひきつがれる精神』展図録、東京都写真美術館、2017年、pp.10-19

武内厚子

「コミュニケーションと孤独」『TOPコレクション 平成をスクロールする』展図録、東京都写真美術館、2017年、p.56

田坂博子

「エクспанデッド・シネマ再考」『エクспанデッド・シネマ再考』、東京都写真美術館、2017年、pp.90-91、pp.126-137
第10回恵比寿映像祭 「インヴィジブル」展リーフレット、東京都写真美術館、2017年

丹羽晴美

「無垢と経験の写真」『無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol. 14』展図録、東京都写真美術館、2017年、pp.10-15

藤村里美

「新興写真とはなんだったのか」『「光画」と新興写真—モダニズムの日本』展図録、国書刊行会、2018年、pp.198-201

三井圭司

「長崎のパノラマ写真 ～幕末期の訪日外国人の作例を中心に～」『写真発祥地の原風景 長崎』展図録、東京都写真美術館、2018年、pp.182-194)

【東京都写真美術館紀要No. 18】

芦高郁子

「福光太郎調査報告」 pp.9-19

【寄稿】

岡村恵子

「未だ見ぬ身体へ——川口隆夫『大野一雄について』」『artscape [アートスケープ]』大日本印刷 (webマガジン)、2017年11月15日号

笠原美智子

単著『ジェンダー写真論 1991-2017』里山社、2018年

「森栄喜の拡大家族」『森栄喜写真集 Family Regained』ナナク口社、2017年、pp.9-14

“Sohei Nishino, IL PO”, *MAST Foundation For Photography Grunt 2018 On Industry And Work*, MAST Foundation, Bologna, Italy, 2018, pp82-85

鈴木佳子

“Elegies in Harmony,” *A Shared Elegy: Photographs by Elijah Gowin, Emmet Gowin, Osamu James Nakagawa and Takayuki Ogawa*, Indiana University Press, 2017, pp.12-13

関次和子

「穂苺貞雄 雲表の竟宴」『山と溪谷』8月号、山と溪谷社、2017年、pp.9-13

「審査講評・写真」『第53回神奈川県美術展 中高生特別企画展』、神奈川県美術展委員会、2017年、p.8

「大橋英児 ありふれた風景への憧憬」大橋英児写真集『Being there』、Case Publishing、2017年、pp.88-89

「槍ヶ岳と写真家・穂苺貞雄」『天空の槍ヶ岳 穂苺貞雄』山と溪谷社、2017年、pp.68-74

「2017年写真集&写真展ベスト5を選ぶ」『日本カメラ』12月号、日本カメラ社、2017年、p.155

田坂博子

「高谷史郎インタビュー音楽とアート、目に見えない“美しさ”について」『美術手帖』2017年5月号、pp.58-65

『植物のイメージを捉える「実験」。田坂博子がみた渡邊耕一展「Moving Plants」』美術手帖 (webマガジン) 2018年3月7日

多田かおり

「残された痕跡—『くるまれた鋼』、『SPUTNIK YIDFF Reader 2017』、認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭、2017年、pp.20-21

丹羽晴美

「時空を揺さぶるハシーシュ」『春木麻衣子 _etc.』2017年、赤々舎、p.72

「東京都写真美術館リニューアル・オープン—裏話」『ZENBI 全国美術館会議機関誌 vol. 12』全国美術館会議、2017年8月、pp.F09-11

「写真考」『aica JAPAN NEWS LETTERウェブ版 第7号』美術評論家連盟 (AICA JAPAN)、2017年11月、p.29

藤村里美

「プリント作品を収集・保存することについて—東京都写真美術館の場合」『日本写真芸術学会誌』日本写真芸術学会、2017年、pp.5-8

“The First Avant Garde” The Japanese PhotoBook, STEIDL, Gottingen, Germany, 2017, pp.98-103

ソニア・フリエル

“Keith Griffith’s Poetics of Production” Beyond the Bottom Line: The Producer in Film and Television Studies, Bloomsbury Academic, 2017, (再版・文庫版)、2014年(初版)、pp.175-194

三井圭司

「フェリーチェ・ベアトの半生」『フェリーチェ・ベアトの写真|人物・風景と日本の洋画』展図録、DIC川村記念美術館、2017年、pp.224-235

望月麻実子

「第二部 印刷博物館レクチャー・企画展示見学参加報告」『アート・ドキュメンテーション通信』116号、アート・ドキュメンテーション学会、2018年、pp.5

山口孝子

「2016年写真の進歩、展示・修復・保存関係」『日本写真学会誌』第80巻3号、一般社団法人日本写真学会、2017年、pp.211-213.

【学会発表】

遠藤みゆき

Miyuki Endo (Collaboration research with Machiko Kusahara and Kazuo Kaneko), “The use of magic lantern in the Japanese temperance movement in Meiji Japan,” International Conference, A Million Pictures: History, Archiving, and Creative Re - use of Educational Magic Lantern Slides, Utrecht University, August 30, 2017

三井圭司

調査口述「シリーズ展『夜明け前知られざる日本写真開拓史』を終えて」日本写真芸術学会、東京工芸大学芸術情報館、2017年6月30日

【講演会・シンポジウム等】

芦高郁子

福知山市・福知山公立大学／京都工芸繊維大学包括協定締結記念 シンポジウム『美術から見た「近代」—新しい時代が求めたもの—「アール・ヌーヴォーと浅井忠のデザイン教育」展紹介(野海智子、芦高郁子) 福知山公立大学4号館1階103講義室、2017年3月4日

石田哲朗

「写真新世紀東京展2017 ポートフォリオレビュー」レビュアー、東京都写真美術館スタジオ、2017年11月11日

伊藤貴弘

「アキバタマビ21 第62回展覧会『ジャストライト』展トークイベント」、アキバタマビ21、2017年8月19日

「『美術手帖』11月号『GENDER IS OVER!?!』特集 森栄喜×伊藤貴弘 トークイベント」、銀座蔦屋書店、2017年11月13日

「竹之内祐幸作品展『The Fourth Wall/第四の壁』展トークイベント」、PGI、2017年11月18日

遠藤みゆき

上田学・遠藤みゆき・大久保遼・向後恵里子「共同研究報告：視覚文化史における幻燈の位置」、国際シンポジウム「日本のスクリーン・プラクティス再考：視覚文化史における写し絵・錦影絵・幻燈文化」早稲田大学演劇映像学連携研究拠点；早稲田大学文化構想学部表象・メディア論系、早稲田大学26号館大隈記念タワー、2017年12月17日

関次和子

「神奈川県美術展〈写真部門〉ギャラリートーク(神奈川県民ホールギャラリー)、6月24日、伊奈英次(写真家)との対談

「映像企画2017特別セミナー」講師、北区飛鳥山博物館講堂、2017年9月17日

「東京都写真美術館の活動と日本現代写真について」呉嘉寶教室レクチャー、視覚丘攝影藝術學院、台湾、2017年12月8日

笠原美智子

「フォト・シンポジウム 写真と社会を繋ぐもの—新たな写真美術館の時代と地域創生—(コーディネーター:伊藤俊治、パネル:笠原美智子、小原真史、港千尋)、フォトシティさがみはら、杜のホールはしもと、2017年10月14日

東京大学AMSEAプログラム「表象と倫理」東京大学本郷キャンパス、2017年11月20日

Lecture “About Tokyo Photographic Art Museum”, 2017 Lianzhou Foto Festiva, Lianzhou Photo Museum, Lianzhou, China, December 3, 2017

武内厚子

「Open MUJI 有楽町『くらしに美術館を』トークイベント」鈴木潤子 (ATELER MUJIシニアキュレーター)との対談形式のトークイベント、無印良品有楽町3F Open MUJI 有楽町、2017年8月27日
早稲田大学エクステンションセンター「芸術の世界 美術館を楽しむ」、早稲田大学エクステンションセンター中野校、2018年2月15日

丹羽晴美

「Talk Session無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol. 14」(丹羽晴美×吉野英理香×鈴木のみ)、daikanyama photo fair、ヒルサイドフォーラム、2017年10月1日

藤村里美

第91回国画会シンポジウム「美術館学芸員が“今”を問う」(パネラー:宝木範義、五十嵐卓、上村牧子、花田美穂、諸山正則、藤村里美)、東京藝術大学美術学部 中央棟第一講義室、2017年5月4日

三井圭司

講演会「フェリーチェ・ベアトの写真技術」『フェリーチェ・ベアトの写真 | 人物・風景と日本の洋画』展関連事業、DIC川村記念美術館、2017年9月23日

シンポジウム講演「從 311 海嘯中獲救: 嚴重受損之攝影檔案文獻的挽救及數位化計畫」「復甦—攝影媒材毀損緊急處理研習營」台湾・國立臺灣美術館、2017年8月24日

ワークショップ「35mm 底片與明膠銀鹽照片的清潔處理方法」および「結塊乾版照片的分離處理方法」「復甦—攝影媒材毀損緊急處理研習營」台湾・國立臺灣美術館、2017年8月25日

山口孝子

平成29年度アーカイブ保存修復研修「写真・フィルムの保存方法」、独立行政法人国立女性教育会館、国立女性教育会館、2017年11月21日

【非常勤講師等】

岡村恵子

早稲田大学文化構想学部「コンテンポラリー・アート」春学期

笠原美智子

明治学院大学大学院「美術史学特殊講義III A, B」春学期・秋学期

九州産業大学大学院「写真特殊演習」2017年11月17日、18日
明治大学理工学部共通総合講座B「写真とフェミニズム」2017年11月8日

鈴木佳子

跡見学園女子大学「写真論」春学期

関次和子

多摩美術大学「芸術学科学芸員課程科目・博物館実習R1」非常勤講師、2017年8月31日

田坂博子

明治学院大学文学部芸術学科「デジタルアート論2A」春学期
東京藝術大学「写真映像論」2017年5月30日、6月6日

丹羽晴美

学習院女子大学国際文化交流学部「国際文化交流演習」春学期
法政大学国際文化学部「写真論」秋学期

藤村里美

玉川大学芸術学部メディア・デザイン学科「写真史」2017年秋期

三井圭司

明治学院大学「写真史写真理論研究」2017年前期・後期
北海道教育大学「ヴィジュアルコミュニケーションデザイン特講IおよびII」2017年度夏期集中講義 8月4日～9日

山口孝子

東海大学課程資格教育センター「博物館学実習I 写真技術」春学期・秋学期集中
独立行政法人東京文化財研究所、平成29年度博物館・美術館等の保存担当学芸員研修「劣化と保存 写真」、2017年7月18日

【委員・審査員等】

伊藤貴弘

平成29年度(第68回)東京都立高等学校定時制通信制芸術祭写真部門審査委員、東京工芸大学芸術学部写真学科「写真学科スペシャル」審査員

岡村恵子

愛知県美術館美術品収集委員会・オリジナル映像部会委員

笠原美智子

東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)、財団法人西洋美術振興財団賞審査委員、財団法人周南市振興財団林忠彦賞選考委員、フォトシティさがみはら2017選考委員、財団法人吉野石

調査研究・普及活動(個人)

膏美術振興財団評議員、公益信託タカシマヤ文化基金「タカシマヤ美術賞」候補者推薦委員、信濃美術館美術館運営専門委員、the amana collection コミッティー, nominator for the Prix Pictet Award, member of the Jury for the Prix Pictet Japan Award 2017, nominator for GD4PhotoART Competition organized by MAST foundation, Bologna, nominator for First Book Award by MACK Kraszna Krausz Foundation, Wilson Centre for Photography

関次和子

第53回神奈川県美術展委員、審査員〈写真部門〉

丹羽晴美

東川賞審査員(東川町)、鳥取県立博物館収集評価委員、公益財団法人日本広告写真家協会公募展審査委員、福島市写真美術館企画専門委員、富士市賞写真部門審査委員

藤村里美

文化庁・企画案選定委員「文化関連資料のアーカイブの構築に関する調査研究」

三井圭司

史跡上田城跡整備実施計画検討委員

山口孝子

日本写真学会幹事、日本写真学会画像保存研究会委員、日本写真保存センター諮問委員、国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員会委員、国立民族学博物館人間文化研究機構連携研究員

【インターン】

東京都写真美術館では、平成20年度からインターン制度を導入している。平成29年度も指導学芸員とともに美術館のスタッフとして、展覧会事業補助、作品管理業務補助等を担当し、将来の美術館活動及び写真・映像文化を支える専門的な人材育成を行った。

内海潤也

東京藝術大学大学院 修士課程

担当業務：「いま、ここにいる—平成をスクロールする 春期」展、「長島有里枝 そしてひとつまみの皮肉と、愛を少々。」展、「写真発祥地の原風景 長崎」展(展覧会準備・関連事業補助など)

指導学芸員：伊藤貴弘

期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日

芦高郁子

京都工芸繊維大学デザイン学専攻 価値創造学領域博士前期課程

担当業務：「荒木経惟 センチメンタルな旅 1971-2017-」展、「『光画』と新興写真 モダニズムの日本」展覧会準備・関連事業補助／作品管理補助

指導学芸員：藤村里美

期間：平成29年6月1日～平成29年11月30日

調査研究・普及活動 (アーカイヴ研究会)

映像音響資料の保存管理および各種アーカイヴ構築の技術と実践に関わる専門機関や教育機関、研究者、技術者および関連企業等との研究および情報交流の機会として、アーカイヴ研究会を、平成29年度より毎年定期的に実施していく。初年度は、東京都写真美術館リニューアルに際し導入した設備の運用実践の技能と課題についてをテーマに、研究講習会として実施した。

平成29年度アーカイヴ研究講習会

平成30年3月30日

講師：黒木直文(NECネットエスアイ株式会社)、堀三郎(アテネ・フランセ文化事業株式会社)

参加者数：13名

調査研究・普及活動 (プリントスタディールーム)

東京都写真美術館では、研究のために直接作品等を閲覧する特別閲覧(プリントスタディールーム)制度を設けている。

平成29年度は、総合開館20周年であることを引き続きアピールしながら、「トップミュージアム」の新しいイメージづくりを継続した。年間目標の「また来なくなる美術館」のために、SNSの活用や、美術館内外でイベントを開催するなど、多角的なアプローチで展覧会と館の魅力を広報した。

1 広報誌「東京都写真美術館ニュースeyes (アイズ)」発行

(vol. 91～vol. 94) 季刊、発行部数：各号30,000部

〈巻頭記事・メインテーマ〉

91号「荒木経惟」

92号「長島有里枝」

93号「写真発祥地の原風景 長崎」

94号「TOPコレクション たのしむ、まなぶ」



左) 91号 右) 92号

2 プレスリリース、チラシの配布およびポスター掲示

各展覧会について日英のプレスリリースを制作し、展覧会開催の2ヶ月前を目途に、マスコミ、美術館・写真・教育関係各所に配布した(約730件)。同時に美術館を中心に、A4チラシとB3ポスターの配布をおこなった(約300件)。チラシ・ポスターは館内および財団関係各所、恵比寿ガーデンプレイス周辺や「あ・ら・かるちやー文化施設運営協議会」関係施設にも配布した。

3 プレス対応

平成29年度は、総合開館20周年記念展をはじめとする展覧会、館の施設紹介、教育普及事業などに関する取材依頼に対応した。プレスには、バラエティーに富んだ作品図版の提供を心がけ、作家へのインタビュー取材も積極的に受けるなど、展覧会をわかりやすく紹介するために柔軟に対応した。今年度の特徴として、TOPコレクションで実施した鑑賞教育プログラム「じっくり見たり、つくったりしよう!」や「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」への関心が高く、教育普及担当学芸員も多くの取材に対応した。また、広報東京都、ART NEWS TOKYO、TOKYO DIGITAL MUSEUM、Tokyo Art Navigationなど東京都・財団関係メディアへの情報提供をおこなった。

a 広報記録

展覧会名

(新聞、雑誌、WEB、テレビ・ラジオ)

〈総合開館20周年記念〉

「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 総集編」

(109件、35件、55件、0件)

「山崎博 計画と偶然」

(58件、35件、46件、0件)

「いま、ここにいる」平成をスクロールする 春期

(59件、29件、62件、0件)

「ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館」

(73件、44件、67件、5件)

「コミュニケーションと孤独」平成をスクロールする 夏期

(35件、26件、47件、1件)

「荒木経惟 センチメンタルな旅 1971-2017-」

(132件、70件、88件、6件)

「シンクロシティ」平成をスクロールする 秋期

(45件、34件、48件、1件)

「エクспанデッド・シネマ再考」

(56件、28件、47件、4件)

「長島有里枝 そしてひとつまみの皮肉と、愛を少々。」

(90件、55件、67件、2件)

「アジェのインスピレーション ひきつがれる精神」

(62件、36件、48件、0件)

「無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol.14」

(76件、33件、59件、0件)

第10回恵比寿映像祭「インヴィジブル」

(48件、39件、166件、6件)



「TOPコレクション コミュニケーションと孤独 平成をスクロールする」展 夏期 テレビ朝日「東京サイト」(8月16日放映より)

b プレス内覧会

展覧会名(開催日、媒体数、参加人数)

「ダヤニータ・シン」「いま、ここにいる」

(平成29年5月19日、54社、65名)

「荒木経惟」「コミュニケーションと孤独」

(平成29年7月24日、82社、106名)

「エクспанデッド・シネマ再考」

(平成29年8月14日、22社、27名)

「長島有里枝」「シンクロシティ」
 (平成29年9月29日、50社、64名)
 「日本の新進作家 vol.14」「アジェのインスピレーション」
 (平成29年12月1日、56社、65名)
 「第10回恵比寿映像祭」
 (平成30年2月8日、上映プログラム・プレビュー18社、28名/
 プレスツアー27社、57名)
 「写真発祥地の原風景 長崎」「『光画』と新興写真」
 (平成30年3月5日、39社、49名)



「ダヤニータ・シン」展プレス内覧会



「荒木経惟」展プレス内覧会

4 ホームページの運営

昨年度、新シンボルマーク・ロゴタイプに親和したデザインに改訂したホームページでは、最新情報やイベント情報を前面に出し、通年で情報更新を頻繁に行った。館概要やコレクション方針など重要なコンテンツは、4カ国語（日本語、英語、中国語【簡体字】、韓国語）に対応し、展覧会情報は日英に対応した。本年度は平均で約65%がスマートフォン端末からのアクセスであった。異なる端末から視認性とデザイン性の高いWebフォントを導入したことや、ツイッター閲覧者の増加によって、スマートフォンからのアクセスが増える傾向にある。2017年4月～2018年3月末までのページビュー総数5,471,106PV（最高は2017年12月の616,575PV）



topmuseum.jp トップページ

「日本の新進作家vol.14」展では、作家の特別インタビューやYoutubeを使った制作風景の動画配信など、web限定のコンテンツを充実させ、SNSへの拡がりを狙った。

5 SNSを生かした広報

公式ツイッターを使い、展覧会開催、イベントおよびワークショップ参加者募集などを告知し、公式ホームページ内への誘導を図った。さらにSNSの機能を利用した広報を実施した。主な事例は下記のとおり。

a 「夜明けまえ」

会期中にツイートを21回おこない、初期写真の専門的な豆知識や、作品の鑑賞ポイントなどを、わかりやすく発信した。

b 「コミュニケーションと孤独」

会期中にツイートを30回おこない、出品作家と作品のミニ情報と展示風景写真を発信した。

c 「エクスパンデッド・シネマ再考」

会期中にツイートを22回おこない、イベント情報と作品紹介を展示風景写真とともに発信した。

d 「第10回恵比寿映像祭」

会期中に日英のツイートでイベント開催告知やチケット販売情報の最新情報をいち早く流した。恵比寿映像祭公式インスタグラムでは、イベントの様子を発信し、短期開催ならではのライブ感を演出した。

6 広告出稿

a 「GW告知」

日本経済新聞 朝刊「プラス1」内記事下 モノクロ 全5段
 平成29年4月29日（土）全国版 約272万部

b 「ダヤニータ・シン」 「TOPコレクション春期」

朝日新聞 夕刊アートページ モノクロ 5段1/2
 平成29年5月16日（火）東京セット版（1都6県エリア、約140万部）
 CINRA.NET 記事広告
 平成29年6月12日（月）アップ 「ダヤニータ・シン」（出演 U-zhaan）
 平成29年6月14日（水）アップ 「TOPコレクション春期」 記事広告（出演 中村一義）

c 「荒木経惟」

朝日新聞 夕刊アートページ モノクロ 5段1/2
 平成29年8月1日（火）東京セット版 約140万部

d 「エクスパンデッドシネマ」

CINRA.NET 記事広告
 平成29年6月12日（月）アップ（出演 山田健人）

e 「長島有里枝」 「TOPコレクション夏期」

朝日新聞 夕刊アートページ モノクロ 5段1/2
 平成29年9月26日(火) 東京セット版 約140万部
 東京新聞 朝刊文化面 カラー 全5段
 平成29年10月6日(金) 約49万部
 CINRA.NET 記事広告
 平成29年10月27日(金) アップ「長島有里枝」(出演 野村友里)



CINRA.NET 記事広告

f 「アジェのインスピレーション」

朝日新聞 夕刊アートページ モノクロ 5段1/2
 平成29年11月28日(火) 東京セット版 約140万部

g 「日本の新進作家vol.14」

東京新聞 朝刊アートページ カラー全5段
 平成29年11月30日(木)、12月14日(木) 約49万部
 東京新聞 夕刊特集ページ カラー全10段1/4
 平成29年12月14日(木) 約17万部



東京新聞 広告掲載

h 「年始開館広告」

朝日新聞朝刊 展覧会特集企画 1都6県エリア モノクロ
 5段1/4
 平成29年12月31日(日) 約340万部発行
 読売新聞朝刊 年末美術館企画 1都6県エリア モノクロ
 5段1/4
 平成29年12月31日(日) 約500万部発行

※多言語対応の広告掲載は項目11を参照

7 『東京都写真美術館概要』

館の活動をわかりやすく紹介した概要を作成した(日英併記、3000部)。改修された施設を中心に、新しく撮影した写真と文章で紹介した。展覧会事業、教育普及事業、支援会員をはじめ幅広く活用した。改訂の(第二版)を作成(日英併記、1500部)。

i 「『光画』と新興写真」 「写真発祥地の原風景 長崎」

朝日新聞 夕刊アートページ モノクロ 5段1/2
 平成30年3月13日(火) 東京セット版 約140万部
 CINRA.NET 記事広告
 平成30年4月6日(金) アップ(出演 スクリプカウ落合安奈)
 東京メトロ構内B1ポスター掲出B1ポスター、各駅2枚(2連貼り)
 表参道(3月7-13日)、銀座(3月19-25日)、東京(3月7-13日)、
 乃木坂(3月5-11日)、神保町(3月12-18日)
 Yahoo!インフィード広告(ウェブ、アプリ)
 平成30年3月26日(火)～3月31日(土) 6,000,000ページビュー
 ー想定
 Yahoo! JAPAN、Yahoo!ニュースなどのトップページ
 リンク先は当館ホームページのトップページ
 CINRA NET
 外部サイトCINRA NETを利用して、ゲストを招いた展示鑑賞インタビューを実施し、当館公式ホームページとの相互誘導を図った。
 平成30年4月6日(金)～5月6日(日)



『東京都写真美術館概要』表紙、見開き

8 記者懇談会の実施

- ①開催日：平成29年6月14日(水)
- 出席者数：19媒体、21名
- 〈主なプログラム〉
- 【第1部】東京都写真美術館 スタジオ
 - ・平成28年度事業実績／平成29年度 事業運営方針
 - ・平成29年度展覧会／教育普及事業等 概要
 - ・映像資料保存(米国)に関する研修報告
 - ・総合開館20周年記念「荒木経惟」展の見どころ
 - ・法人支援会員について
- 【第2部】カフェ・メゾンイチ
 伊東館長、館職員との懇談会

②開催日：平成30年1月16日（火）

出席者数：16媒体、20名

〈主なプログラム〉

【第1部】東京都写真美術館 スタジオ、2階・3階作業室

- ・平成28年度外部評価／29年度事業実績
- ・平成30年度 自主事業紹介
- ・「第10回恵比寿映像祭 インヴィジブル」について
- ・平成29年度 新規収蔵品の紹介及び定見

【第2部】会議室

伊東館長、館職員との懇談会



記者懇談会の様子

2) TOPスタンプラリー

「TOPコレクション」展（平成29年5月13日～11月26日）鑑賞者を対象に、スタンプラリーを開催した。3展中、2展鑑賞者に鉛筆、3展鑑賞者にポストカードをプレゼントした。

配布数

スタンプ台紙 18,231枚

鉛筆 1,779本

ポストカード 816枚

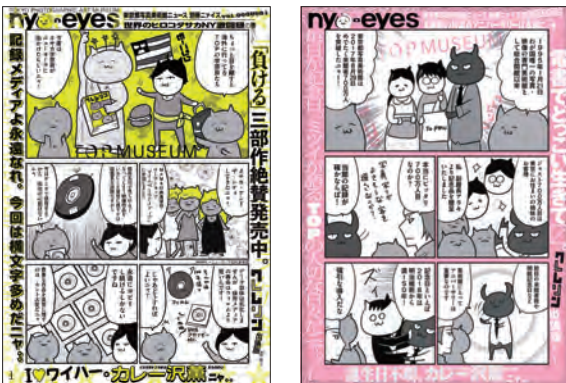


スタンプ台紙

9 広報誌別冊「nya-eyes（ニアイズ）」vol.76～vol.87発行

月刊、発行部数：各号30,000部

展覧会以外の事業を紹介することを目的に、広報誌「eyes」の別冊として、猫漫画「クレムリン」（カレー沢薫、講談社）とコラボレーションした「nya-eyes」（ニアイズ）を発行した。



左) ニアイズvol.81 右) ニアイズvol.85

3) 各所との広報連携

a. 「荒木経惟」展について、同時期に同作家の展覧会が都内で多数開催されたため、チラシ配布などの広報連携を実施した。特に、東京オペラシティアートギャラリーとは、相互割引サービスや共同のチラシ表記を行い、お客様の回遊を促進した。

b. 「写真発祥地の原風景 長崎」展では内閣府の主唱する「明治150年」キャンペーンサイトとバーターを結び、相互広報の一環として展覧会ページへのリンクバナーを掲載した。



キャンペーンサイトバナー

10 「また来なくなる美術館」としての取り組み

1) アクセスのよい近隣地域での広報強化

当館へのアクセスが良い地域において「TOPコレクション」展（3展）の開催を広く告知した。アトレ恵比寿では「TOP MUSEUM クロマキールランド どこでも記念撮影」（平成29年7月8日〔土〕14:00-17:00 本館4Fフォントーナ広場、無料、61組128名参加）を開催し、だれにでも楽しめる開かれた美術館のイメージをアピールした。また、無印良品有楽町店では、TOPコレクション担当学芸員が普及活動（個人）としてトークイベントを開催した（詳細は44ページ）

4) セット券キャンペーン

平成29年12月2日～平成30年1月28日に開催中の「アジェのインスピレーション」「日本の新進作家vol.14」「ユージン・スミス」の3展について、セット券での観覧をすすめるキャンペーンを行った。1階総合受付での表示と、受付係員が優先的に説明することで、当館の特徴である複数展示の楽しみ方を来館者に提供した。

5) 恵比寿ガーデンプレイス (YGP) での広報展開

YGP利用者のリピート来館のために、オフィスワーカーへの観覧割引サービスと当館チケットをお持ちの方へのYGP内店舗でのサービス提供を行った。そのほか、各展覧会毎に恵比寿ガーデンプレイス施設や媒体で告知した。そのほかスカイウォークへの広告出稿を行った。

- 広報誌「YEBISU STYLE」連載「TOPニュース！」
- スカイウォークバナーの掲出（「第10回恵比寿映像祭」告知）
- ポスター掲示、スカイウォーク内電飾看板、各種案内表示の更新
- ホームページ情報掲載（「イベント」、「カルチャー」ページ）
- チケット割引サービスのチラシ作成（「チケ得」、「オフィスワーカー割引」）

6) お正月開館

1月2日、3日には「トップのお正月」として新春を祝し、各日先着500名に「東京都写真美術館オリジナルえんぴつ」を提供した。カフェではパンの福袋（18個）を、ショップでは写真集等の福袋（30個）を提供した。また、橘雅友会による雅楽演奏「とっふ雅楽」（計4公演）を開催し、館内は多くのお客で賑わった。

「とっふ雅楽」（各日13時、15時に開催）

開催日：平成30年1月2日（火）参加者数：計403名（191/212）

開催日：平成30年1月3日（水）参加者数：計164名（83/81）

「とっふ雅楽」のリピーター観覧者は約半数で、毎年の開催を楽しみにしている来館者が多数いることがわかった。



11 インバウンド広報の強化

訪日旅行者および在日外国人の来館を促進するために、インバウンド広報を強化した。英語雑誌のインタビュー取材対応や、SNS系メディアや多言語誌などへの広告掲載を実施した。

1) 取材とプレス対応

英語のフリーペーパー「METROPOLIS」で、「写真発祥地の原風景 長崎」展開催前に担当学芸員へのインタビュー取材をおこなった。展示のハイライトやイベント告知などを本誌とwebで情報公開し、貴重な英語による展覧会情報の発信源となった。

2) 多言語広告の掲載

a 「トリップアドバイザー」(web)

平成30年2月5日（月）～3月31日（土）

観光施設のランキング表示ページの3番目に掲載。日本配信の英語表記、中国配信の簡体語表記、香港配信の簡体語表記、韓国配信の韓国語表記に計703,061回表示

対象：来日を計画する旅行者、来日中の旅行者 言語：英語、

中国語、韓国語

b 「att Japan」(フリーペーパー)

ディスプレイ広告 カラー1/3ページ（3月10日発行、18万部）

対象：外国人旅行者 言語：英語、中国語

c 「ACUMEN」(在日英国商工会議所機関誌、web)、 「THE JOURNAL」(在日米国商工会議所web)

ACUMEN（3月15日発行、6万部、表3カラー広告）（3月1日～3月31日、トッププレミアムバナー、訪問者数約5000人/月）、THE JOURNAL（3月1日～3月31日、バナー広告、訪問者数約40,000人/月）

対象：頻繁に来日する富裕層の外国人、外資系企業のエグゼクティブクラス 言語：英語

d 「METROPOLIS」(フリーペーパー)

To-Do List広告（3月23日発行号、3万部）、Facebook広告（250クリック保証）

対象：外国人旅行者、在日外国人 言語：英語

e 「Japan Times」(一般紙)

平成30年3月8日（木）および3月14日（水）

フロントページ（第一面）、1/16枠カラー広告

対象：外国人旅行者、在日外国人 言語：英語



「トリップアドバイザー」掲載例

3) アクセス情報の多言語化

ポータルサイトGoogleが展開するストリートビュー屋内版（WEBサイト・アプリ）に当館の周辺情報を掲載した。恵比寿ガーデンプレイス入口から当館メインエントランスまでのルートのパノラマビューで紹介し、館周辺のルート案内を強化して国内外に向けて発信した。



Googleストリートビュー屋内版